

「異文化」の理解を目指した研修旅行 (IX)

—— “吉備地域 (吉備路・備前・牛窓) の文化史” の実地研修 ——

A Study of Field Trips to Understand Different Cultures (IX)

—— A Field Trip to Study the History of Culture in Kibi District (Kibiji·Bizen·Ushimado) ——

戸田利彦・秋枝(青木)美保

Toshihiko TODA and Miho AKIEDA(AOKI)

In the last paper, a small field trip to study regional cultures held during the Japanese language and culture courses of a university was analyzed and problems were summarized for future plans and practices of study camps and field trips. This paper focuses on a field trip to study regional cultures. It is planned and put into practice for the purpose of understanding the cultures of Kibiji district, Bizen district and Ushimado district in Okayama Prefecture. Its characteristics are summarized as follows:

- 1 This field trip is a result of two field trips in Kyoto, a study camp in Hiroshima City, a small field trip in Hiroshima Prefecture, a field trip in Setouchi, a field trip in Shimane Prefecture, a field trip in Geiyo district, a field trip in West Chugoku district, and a field trip in Yamato district.
- 2 A regional study concerning history of culture in Kibiji, Bizen and Ushimado district is stressed in this trip.
- 3 This field trip includes 5 lectures, two free talks by local speakers and a small investigation with local volunteer guides.
- 4 This field trip is planned and put into practice mainly by students who are members of the Hijiya University Japanese Language Culture Society.
- 5 An inspection trip by teachers and students was also made before this field trip.

Practices of the field trip are analyzed based on questionnaires filled out by the participants. Then, problems are summarized for future field trips.

はじめに

10月中旬, 研修を終えて8ヶ月が過ぎたが, 新聞の片隅に小さな記事を見つけた。牛窓町の「合併五十周年記念式典・閉庁式」に関するものである。1954年に三町村が合併して発足した牛窓町は, 今年50周年の節目を迎えると共に, 「平成の大合併」により半世紀の歴史に幕をおろすというものである。我々が研修地として訪問した牛窓は, 11月1日, 邑久町, 長船町と合併し, 「瀬戸内市」として新たな歴史を刻みはじめる。広いエリアの中に数々の市町村を持つ瀬戸内地域の中で, 新市の名を「瀬戸内市」とするにはそれなりの自負と深い思い入れがあったものと想像される。それは何か。来日したギリシャ人が牛窓の海を見て表現したと言う“日本のエーゲ海”という呼称とその全国的な認知度, 文化庁によって選定された文化的景観を持つ街としての実質的内容, 瀬戸内海にある最も古く

から栄えた港を持つ歴史的な重みなどが個々にはあげられよう。しかし、その根底にあるのは、牛窓・邑久・長船の三町が、かつて大陸と畿内の交流の大動脈であった瀬戸内海航路の中継地として繁栄した古代吉備の国の中枢エリアの一つであったという事実ではあるまいか。「瀬戸内市」という命名には、かつての栄光を懐かしみまたそれにあやからうとする住民の思いが無意識のうちに凝縮されているように思う。

8ヶ月前、我々が訪問した旧牛窓町のオリーブ園展望台で見たオリーブと周囲の景観を、半年後に再びギリシャで見ることになった。五輪発祥の地に戻った第28回夏季オリンピック・アテネ大会である。連日テレビに映し出されるエーゲ海、そしてメダリスト達の頭上を飾るオリーブの冠。日本人選手も過去最多の37個のメダルを獲得し何度もオリーブの冠を見ることができたが、特に、日本時間8月23日午前2時半頃、陸上女子マラソンで金メダルを獲得した野口みずき選手に贈られたオリーブの冠は、マラソン発祥の地で行われたレースの勝者を称えるかのように、一際輝いて見えた。

マラソンそしてアクロポリスの丘のバルテノン神殿の横を駆け抜けた日本人女性アスリートの頭上にオリーブの冠が贈られた瞬間、それは、筆者にとっては、牛窓とアテネ、そして瀬戸内海とエーゲ海がはじめて意味を持って繋がった瞬間でもあった。そして、それは、半年前の研修で訪問した吉備とオリンピックが開催されているアテネが不思議な縁で実質的にそして歴史的に繋がった瞬間でもあった。不思議な縁は、今回の研修の準備中に読んだ古代祭祀研究家の薬師寺慎一氏の文章の一節に書かれていた。氏は今回の研修で講演（「吉備の中山とイワクラ」）を依頼した方であるが、鬼ノ城のある鬼城山と古代の信仰との関係について、その著書『祭祀から見た古代吉備』（2003年、吉備人出版）の中で、次のように述べている。

結論から言えば、鬼ノ城山は、以前は祭祀に関わる聖なる山であったが、後にその上に山城が重なってきたものと、私は考えています。古代ギリシャにはポリス（都市国家）が並立していましたが、その代表はアテネでした。町の中心にアクロポリス（丘）があり、丘上のバルテノン神殿には町の守護神アテナが祭られていました。注意すべきは、外敵が攻めてきた時、最後に立てこもるのがこの丘であったことです。即ち、この丘は守護神を祭る聖地であり、同時に城（逃げ込み城）でもあったわけです。（同上書、p86）

今回の研修のハイライトの一つであった鬼ノ城については、築城の目的、時期、機能など、朝鮮式の山城であるという事実以外の部分は、歴史的に謎が多いが、氏の言わば鬼城山祭祀場説は、読者である筆者に新鮮な感動を与えてくれた。吉備とアテネ、そして鬼ノ城とアクロポリスが対比の対象となりうるという指摘に発想の面白さを感じたのである。

ところで、今年の日本は台風の当たり年であった。上陸数の平均値が0.2個であった6月の2個にはじまり、10月までに統計開始以来最多の合計10個が上陸し、日本各地に大きな被害をもたらした。研修で講話とフリートークをお願いした水彩画家廣畑一男氏からの初秋の便りの中には、8月末の台風16号の影響で、我々が自由研修を行った牛窓の街が海水で浸かってしまったことが書かれていた。また、10個目の台風23号は、全国に1979年以降で最悪の被害をもたらしたが、吉備地域も例外ではなかった。洪水、突風、土砂崩れ、高潮、高波などで悲劇にみまわれた人々の姿、復旧に務める自治体や自衛隊やボランティアの人々の様子が放映されたのは記憶に新しい。台風の襲来がおさまったと思った頃、今度は、大きな直下型地震が新潟を襲った。余震が続く中、懸命に生活を立て直そうと努力する人々の姿、支援の手を差し伸べる人々の姿が、連日報道される。今年の6月から10月は、有史以来経験してきたであろう台風や地震などの自然災害に対する日本人の思いや行動を、いやが上にも思い起させる4ヶ月間であった。台風や地震による被害を受けた人々がインタビューを受けて、「自然が相手だけにどうしようもないです。」と答える姿は痛々しい限りであるが、毎度繰り返されるその言葉の中に、日本人の心に連綿と受け継がれてきた、被害も恩恵ももたらす自然に対する諦念と共に

畏怖と畏敬の念も隠されているような気がしたのは筆者だけであろうか。

「晴れの国おかやま」というキャッチフレーズがあるように、吉備地域は気候的に温暖で自然災害も少ない地域である。この点は、今も昔も大差はなかろう。古代吉備王国が栄えたのも、大陸と畿内の中継地であったということだけでなく、温暖で災害の少ない風土が豊かな農業生産をもたらしたということがあってのことだろう。しかし、そんな吉備地域ですら、自然災害と無縁でいられないのが、「台風の国」「地震の国」という日本の国の宿命でありまた特徴なのである。このような日本の風土こそが、日本人の自然に対する独特の思いあるいは信仰心を醸成していったのではあるまいか。

1位でゴールした野口みずき選手がオリープの冠を戴いたアテネのパナシナイコ競技場の西方に、アクロポリスの丘はある。テレビでも何度も放映され実物を身近に感じることができたが、吉備の鬼ノ城は、同じ祭祀場として機能していた時代があったとしても、雰囲気はかなり異なる。鬼城山のイワクラと石造りのパルテノン神殿の類似性はともかく、標高約400mの山頂と市街地の小高い丘、豊富な緑と露出した岩肌と、吉備とアテネの風土の違いそして神に対する思いの違いが象徴的に表われているようですらある。ギリシャそしてアテネに台風に相当する自然災害や地震がどの程度あるのかは勉強不足で正確にはわからない。しかし、日本に比して少ないことは想像できる。時間を見つけてまたゆっくりと比較調査してみたいが、台風、地震などの一過性の自然の猛威が、日本あるいは吉備地域の風土とりわけ自然への信仰心に少なからぬ影響を与えている点は否定できないであろう。

吉備とアテネ、遠く離れた洋の東西においても類似した地域文化や風土があり、比較の対象になりえるという事実の発見、そして、やはり違いがあるということの発見は、筆者にとっては、今回の「異文化」理解を目指した研修旅行の一つの成果であったことを記しておきたい。

今回の研修に参加した1年生の学生の一人が、日本語文化専攻（コース）の広報誌（比治山大学日本語文化通信／第四号／2004.7）の中で、はじめて研修旅行に参加した感想として「私は、研修旅行の最大の魅力は古の人々が育んできた文化に触れることにあると思う。特に備前は焼き物、鋳物、刀剣で栄えた国である。高度な技術を持った人、すなわち文化を絶えることなく創り出す人々を何百年も輩出した土地である。（中略）海外からも日本文化が注目されている今、我々もあらためてすばらしい日本文化を見直す時期を迎えているのかもしれない。」と述べている。

現在、茶道部の部長として活躍している学生の弁だけに重みがあるが、筆者の発想と通じるころもあり、頼もしい。研修を終えてから既に半年が過ぎようとしているが、この種の研修旅行の教育的効果を再確認すると共に改めてその意義を確認することができた点は喜ばしい。

今回の日本語文化研修旅行は、全員参加形式の学校（日本語文化専攻）行事から自由参加形式の学会（日本語文化学会）行事に移行して6度目のものである。過去5回の研修の問題点^{注1}）をふまえ、中国・四国地区における通常研修ではじめて2泊3日の日程とし、計8回の事前研修、オプションを含む自由研修形式、必修スポットを含む自由研修形式、地元ボランティアの活用などの新しい試みを継続しながら企画・運営を行ったが、より充実した実地研修にするためのさらに新たな視点を発見することができた。そこで、本稿では、その計画から実施に至る経緯及び結果の報告を行い、研修旅行のあるべき姿について考察することを目的とした。

I. 実施までの経緯

前回の大和地域（斑鳩・飛鳥・奈良）への研修旅行を企画していた頃、第2回に実施した奥出雲・出雲地域への研修旅行との関連もふまえて、今回は中国・四国地域に戻り、大和、出雲と並び、古代世界の一つの中心地として栄えた吉備の国を訪ねてみるのも面白いのではないかという声が聞こえるようになっていた。斑鳩、飛鳥、奈良など、いわゆる中央文化を形成した歴史を持つ街を訪問した後

に、改めて吉備という地域文化に光を当ててみようという試みである。

前回の大和地域への研修旅行に参加した学生に対するアンケート調査でも、次回の研修地域として吉備が適当という答えが圧倒的に多かった。そこで、新年度のはじめには、過去の実績も考慮し、今回は吉備路を中心とした吉備地域への訪問が自然のなりゆきようになっていった。

まず、自由研修を行う研修エリア及び宿泊地として吉備路と牛窓を選定した。理由はそれぞれ以下の通りである。

〈吉備路〉

1. 研修の中心エリアは古代吉備王国の中心的位置にあたり、巨大な古墳や歴史のある神社や祭祀場跡など、様々な歴史遺構が豊富であり、自由研修を中心に大和や出雲との比較ができること
2. 2005年開催の岡山国体にあわせて古代山城鬼ノ城の整備が進められており、研修当日の頃には日本で初めて古代山城（西門周辺）が復元される予定であること
3. 吉備路の中心を占める総社市は、2004年が市制施行50周年にあたり、大和の「斑鳩・飛鳥・奈良」のように、古代からの文化発信と都市基盤の整備との融合した「人と緑の交流都市」を目指して街づくりが進んでおり現代的な魅力があること
4. 観光センターを併設し地域性を考慮したユニークな外観と設備を持つ国民宿舎がオープンし、有効な実地踏査の拠点となる安全で比較的安価な宿泊施設が確保できること

〈牛窓〉

1. 吉備の国の上道（かみつみち：備前）の玄関港として瀬戸内地域でも最も古くから栄え、大陸との交流の歴史も豊かで、備前焼の故郷として、また、積み出し港としても有名なエリアであること
2. 2004年が瀬戸内海国立公園指定70周年記念にあたる年で、最初に指定を受けた児島の鷲羽山周辺と並び備讃瀬戸の中心的地域であること
3. 海、島、丘、棚田などを含めた牛窓港の景観が文化庁により文化的景観の重要地域として選定される予定であること（実際に2003年6月に選定される）
4. 2004年が朝鮮通信使の礎を築いた李朝の高僧・松雲大師渡日の400周年にあたること
5. いわゆる平成の市町村大合併により、邑久町、長船町と合併協議が進み、2004年秋には、瀬戸内市という瀬戸内地域を代表する新市名で新たな町づくりが進もうとしており興味深いこと

以上のような理由で、まず、自由研修を行う研修エリア及び宿泊地として、吉備路・牛窓を選定し、関係教員や学生の意見を聞いて、順路を検討し、最終的に、日本最古の庶民の学校であり国宝の講堂を持つ閑谷学校と吉備路ゆかりの作家資料と特別展示に特色のある吉備路文学館を研修地に加えた。研修の全体テーマは「吉備の文化を訪ねる ― 吉備路・備前・牛窓の文化史 ―」とすることにし、2003年5月に企画の原案を立て、文部科学省（私学事業団窓口）の「私立大学教育研究高度化推進特別補助」の企画として申請した。本学の日本文化史を担当している松下正司教授や志田原重人助教授のアドバイスを受けながら情報収集を行い、研修日程と内容を決め、12月に参加者を募集した。岡山県郷土文化財団の高山雅之氏に相談し、松下正司教授との親交もある岡山県青少年教育センター次長の上西節雄氏に閑谷学校の現地説明の依頼を行った。その後、様々な情報と人脈から、総社市教育委員会の村上幸雄氏と松尾洋平氏に鬼ノ城の現地説明を、山陽放送報道部の放送記者である佐藤伸朗氏にフリートークを、古代祭祀研究会の講師である薬師寺慎一氏に吉備の中山と吉備津神社に関する講演と現地説明を、廣畑一男氏に講話とフリートークを、吉備路文学館の館長千田洋右氏と学芸員の奥富紀子氏に講演をそれぞれ依頼し、快諾を得た。1月中旬に3回、研修の前日に1回、1日目の往路のバス内で1回、2日目の吉備津から閑谷学校への移動のバス内で1回、閑谷学校から牛窓への移動のバス内で1回、3日目の寒風陶芸会館から吉備路文学館への移動のバス内で1回の計8回の事前研修を行った。

第1回では、研修目的と基本日程をふまえた上で、‘通常研修としてはじめて2泊3日となり、研修の内容が充実する分、研修の成果が、これまで以上に参加者個人個人の自覚と事前学習にかかってくる’ことを強調し、事後に報告書用に提出するレポートの内容と形式、研修中の役割分担について確認した。また、実地踏査の方法の第1段階として、主たる研修スポットを点で捉えることを念頭に、代表的な史跡・文化施設について学習した。第2回では、実地踏査の方法の第2段階として、研修エリアを面で捉えることを念頭に、鬼ノ城と吉備津神社を中心に、吉備の里の街としての規模、交通の便、風土的特徴について学習した。第3回では、2回に引き続き研修エリアを面で捉えることを念頭に、閑谷学校と海遊文化館と吉備路文学館を中心に、閑谷学校周辺や牛窓の街の規模、交通の便、風土的特徴について学習した。併せて、研修中及び事後報告書作成の役割分担を決定し、それぞれ準備を確認した。第4回では、事前調査旅行（下見）の報告と質疑応答を行いながら、自由研修エリアについてルートを中心に全体的な視点から学習した。また、完成したしおりに基づいて最終的な日程について確認した。尚、各自の研修テーマの深め方を学ぶことをねらいとし、今回の研修テーマに関する研究書の一節や研究論文、新聞記事を、第1回～4回に適宜読んで学習した。第5回～8回は、実地踏査の第3段階として、主な研修スポットとエリアを空間で捉えることを念頭に、吉備の国、吉備津神社、備中国分寺五重塔、津田永忠、備前焼、牛窓、牛窓の文化と心、内田百閒それぞれに関する計8本のビデオを視聴した。

第4回の事前研修の前の2月中旬には、企画班の学生3名と共に、吉備路を中心とした事前調査旅行を実施した。講演者やボランティアの方々への挨拶と打ち合せ、研修スポットやエリアの踏査と詳細情報の収集、宿泊所との最終打ち合せなどを行った。特に、吉備津の古代祭祀研究会のボランティアの方々との出会いと当日のシュミレーション体験に基づくガイドの依頼、鬼ノ城への道路状況や鬼ノ城西門の復元工事の状況の把握、入館料等の確認、吉備路の自由研修エリアの現況の把握及び最新情報の入手、バスの駐車場・待機場所の確認など、研修直前の事前調査として必要な項目について踏査した。

II. 実施内容^{注2)}

往路では、出発して約1時間後に山陽自動車道の八幡PA（三原市）で10分間程度の小休憩を行ったが、この小休憩によってできた前後2つの時間帯の中のそれぞれ25分～30分程度を利用して、第5回事前研修（前半25分、後半30分）を行った。内容は、自治体の作成した吉備の国の包括的な紹介を含むビデオ（『吉備の国新発見の旅』／岡山県）あるいは研修場所に関する専門的知識を含むビデオ（『吉備津神社・春の七十五膳据神事（岡山の祭りと芸能1）』／岡山民俗学会、『備中国分寺—五重塔（岡山県〈自然・文化財〉シリーズ11）』／岡山県郷土文化財団）の視聴と最近掲載された吉備路に関する新聞記事の説明である。いずれも、研修場所を問題意識を持って考察し事後のレポート執筆の参考とすることをねらいとしていた。天候はやや曇りがちであったが、古代の主要道路の末裔ともいえる山陽自動車道は、三原の八幡PA以東は古代吉備の国の中枢部を通り抜けていくものであり、古のロマンを十分に感じさせてくれた。バスは順調に走行し、安芸の広島を出発しておよそ2時間半で吉備路の総社へ到着した。

まず、吉備路観光センターに立ち寄り、併設されている宿泊所の確認も兼ねて休憩を取った。短い時間ではあったが、センターでは、吉備路全体を示す模型やビデオを視聴したり、地域情報の掲載された各種パンフレットを入手したり、案内所で情報を確認したり、参加者は思い思いに時間を過ごした。その後、鬼ノ城がある標高約400mの鬼城山へ向けて出発し、山の上には十分なトイレ施設がないということで、途中にある砂川公園でトイレ休憩を取った後、狭いつづら折りの道を通って鬼ノ城

の駐車場に着いた。午前中の早い時間帯であったので対向車も少なく、予定通りの時間に到着できたのは幸運であった。

復元された西門を東に望む学習広場で、総社市教育委員会所属の学芸員であり、鬼ノ城発掘を担当する松尾洋平氏による現地説明がはじまった。眼下に広がる吉備平野を背景に聞く古代吉備の歴史や文化、発掘のすすむ古代山城鬼ノ城についての話は、研修ならではの醍醐味を感じさせてくれた。自然遊歩道を通して復元されたばかりの角楼・西門方面に移動し、説明を受けながら城門、版築土塁、敷石、水門などの実物に触れた。その後、第2水門までゆき西門まで折り返した。全周2.8kmある城壁の8分の1程度を踏査したにすぎないが、松尾氏の熱心で楽しい現地説明と鬼ノ城の持つ圧倒的な存在感に、参加者は大いに感銘を受けた。昼過ぎに下山し、吉備路観光センターの併設された宿泊所、国民宿舎サンロード吉備路へ帰着した。その後約4時間、吉備の里で自由研修を行った。前回からはじめた企画として、自由研修における必修スポットの訪問があるが、今回は、講演に代わるものとしての位置付けから、考古資料を中心に吉備の歴史の流れが展示されている吉備路郷土館を選定した。参加者は自分の自由研修計画書^①(注³)の中に入れ、風土記の丘の閑静な社の中に佇む文化施設を訪問し、それぞれのペースで興味深く学んだ。

夕食時間を利用して、吉備の里での自由研修の報告会を行った。夜は、これも前回からはじめた“～さんを囲む会”を設定し、地元民放である山陽放送の報道部記者兼番組ディレクターの佐藤紳朗氏から、5日後の2月22日(日)16:00~16:54に放送予定の“輝ける吉備 よみがえる鬼ノ城”という特別番組の制作にまつわる話題を中心に、地域の歴史や文化を題材とした番組づくりのあり方について話を聞いた。当日の午前中に実際に鬼ノ城を訪問していたこともあり、参加者はそこでしか聞けないユニークで特別な話を熱心に聞き、フリートークという和やかな雰囲気の中で突っ込んだ質問や率直な受け答えなどもあり興味深い意見交換の場となった。一昨年までの研修では、“土地の宝”を直接的に研究あるいは保存する人を“土地の人的宝”とし、講演や現地説明を依頼してきたが、日程が許せば、“土地の宝”の伝達あるいは継承を通して貢献しようとする人も含めて“人的宝”の発掘に努めるのも有意義であろう。

翌日の午前中は、まず、備前の一宮である吉備津彦神社の境内にある新築間もない参集所で、郷土史家の薬師寺慎一氏の講演を聞いた。真新しい畳の肌触り、部屋に漂うヒノキの香り、木々の間から差し込む朝の陽光など、由緒ある神社ならではの環境の中、清新な気持ちで聞く講演は、「吉備の中山とイワクラ」という聖なる山や石に関する内容もあいまって、心地よいものであった。講演者のユニークな人柄もあって、凛とした中にも和やかな雰囲気があり、地・天・人の利に恵まれた有意義な時間となった。薬師寺氏は、京都大学で学んだ後、地元で中高校社会科教員をし、退職後は郷土史家(古代祭祀研究家)として史跡の踏査や研究会の講師などを精力的に行っておられ、著書も多数ある方である。今年80歳になるという高年齢を感じさせないかくしゃくとした若々しさを持っておられ、関西弁と岡山弁がほどよくブレンドされた独特の語り口もてつだって、参加者は氏の話に魅了された。また、薬師寺氏が講師を務める古代祭祀研究会の事務局長の難波和雄氏や、会員の池上早苗氏、大木初美氏が、当日の会場の準備をはじめ、湯茶の用意までしてくださったことも印象的であった。“土地の宝”を主体的に学び、大切に継承していこうとする人々の“もてなしの心”に触れること、それは、“土地の宝”そのものに触れることでもあり、この研修企画の趣旨を再確認させてくれるものであった。当初は講演を一宮公民館でと考えていたが、水曜日は休館日ということで、地元ボランティアの方の紹介もあり、当神社で実施することになったが、不幸中の幸いとはまさにこのことを言うのであろう。宿泊所からの移動には多少時間がかかったが、備前の一宮である吉備津彦神社と備中の一宮である吉備津神社の二つの神社を持つ吉備の中山の歴史的価値を理解する上でも有効であった。講演終了後、バスで5分程度の所にある吉備津神社に移動し、薬師寺氏と古代祭祀研究会の会員の方々

の補助による現地説明が行われた。国宝の拝殿や本殿をはじめ、社殿が造られる以前のイワクラ、神社の敷地内にある古墳などといった普通の観光では説明されることのない講師の独特の視点で選定された事象について、興味深くわかりやすい説明を受けた。

現地説明会の後、自由研修計画書②に基づき、吉備津神社周辺で約2時間の自由研修を行った。その間、希望者は、難波和雄氏の案内で、バスで10分程度の所にある楯築弥生墳丘墓（楯築遺跡）を訪問し、御神体の亀石や温羅伝説の立石を見学した。晴れ渡った日の正午頃であり、古代吉備王国の前身の弥生の首長が葬られたという3世紀前半の遺跡からは、北方向に前日上がった鬼城山の鬼ノ城西門も遠望でき、明るい光に溢れる吉備の山野を見ながら、参加者は吉備津彦命と温羅との伝説の戦いにロマンを馳せた。

午後は、岡山ICから山陽自動車道に上がり、途中、仁徳天皇陵と同系の環濠が発見され地元メディアで大きく報道されたばかりの備前地域の巨大古墳である両宮山古墳（山陽町）を左手に見ながら、備前閑谷学校を目指した。その間、バス内で第6回事前研修会（45分）として、両宮山古墳の発掘間もない環濠に関する新聞記事を配布し、説明すると共に、研修場所に関する専門的知識を含むビデオ（『津田永忠（岡山県〈人物〉シリーズ6）』／岡山県郷土文化財団、『備前焼（岡山県〈自然・文化財〉シリーズ15）』／岡山県郷土文化財団）を視聴した。

備前IC経由で14:00前に閑谷学校へ到着後、青少年教育センター閑谷学校次長であり備前焼の歴史にも詳しい上西節雄氏による現地説明を聞いた。上西氏は、今春本学を退職し名誉教授となった松下正司氏が草戸千軒遺跡を発掘していた頃から交流のあった方で、本学学生の来校を大歓迎して下さった。参加者も松下元教授の知り合いということで、親近感を持って丁寧かつユーモア溢れる氏の話を聞き、世界遺産登録推進運動も盛り上がりつつある歴史遺産の貴重さに思いを新たにされた。また、閑静な山間にあり、自然と融合した歴史の重みを持つキャンパスと建物には、今もって教育の殿堂というにふさわしい何かしらゆかしい雰囲気も漂っており、参加した教員も学生もそこに教育の理想郷を見る思いであった。国宝の講堂を中心とした現地説明の後、約1時間の自由研修を行った。参加者は、自由研修計画書③に基づき、閑谷学校資料館、椿山、津田永忠宅跡、黄葉亭などを踏査した。

夕方、閑谷学校を出発し、樺の木街道を南下して岡山ブルーラインに入り、日本のエーゲ海と呼ばれる牛窓の海が夕陽に染まる光景を見ながら、宿泊地の牛窓を目指した。途中道の駅一本松展望園（邑久町）で休憩を取ったが、そのことで生じた前後2つの時間帯を、第7回事前研修会の前半（20分）と後半（10分）に当てた。前半は研修地に関する専門的な知識を含むビデオ（『牛窓（岡山県〈自然・文化財〉シリーズ12）』／岡山県郷土文化財団）の視聴と牛窓の自由研修の中の非公式のオプションとして実施予定の絵本の店とその主人である色鉛筆画家に関する文章の紹介、後半は地元自治体の作成した牛窓の包括的紹介を含むビデオ（『牛窓』／牛窓町）の中の「牛窓～その文化と心～」の部分の視聴を中心に事前研修を行った。予定通り、17:30分頃宿泊所の国民宿舎シープラザ牛窓に到着した。牛窓港に面した各部屋からは、眼下には夕陽に映える一文字波止場が、西方には夕焼けに染まる備讃瀬戸の空が見えた。

夕食時間を利用して、吉備津神社周辺及び閑谷学校周辺での自由研修の報告会を行った。夜は、前日同様の形式で、“廣畑一男さん（水彩画家）を囲む会”を行った。牛窓の自然景観を水彩画として描き続けている廣畑氏の実際の絵と色彩豊かな絵入りのレジュメを用いての牛窓紹介は、独特の味わいがあり、当地の風土が単なる知識を超えて参加者の感性に直接染み渡ってくるようであった。また、翌日の自由研修に向けて、役立つ情報を得ることができた。廣畑氏は、牛窓に生まれ育ち、地元の学校で美術や社会を教え、校長の経験もある方で、まさに“土地の人的宝”というべき方であった。また、氏は、牛窓の喫茶画廊の店主山本三保子氏を通して紹介していただいた水彩画家であったが、歴史や文化だけでなく景観をも対象としたいという今回の研修の趣旨に見事に合致する方であった。定

期的に個展を開くと共に、牛窓の伝説にちなんだ絵本や自然景観を描いた絵葉書を製作するなど、文化的景観の保全と発信を絵画を通してごく自然に体現されている姿には新鮮な感動を覚えた。

最終日の午前中は、まず、廣畑一男氏と共にオリブ園展望台を訪問し、氏による自然景観と歴史を中心とした現地説明が行われた。氏自身の幼少期あるいは教員時代のエピソードも交えての話であったので、非常に印象に残った。やや曇りがちの天気であったので、四国までは十分には見えなかった。しかし、70年前に瀬戸内海国立公園として最初に指定された地域としての雄大な景観と多島美は、瀬戸内市という予定されている新たな市名に恥じないものであった。

現地説明の後、海遊文化館で全体研修を行った。地元のだんじりと祭り、朝鮮通信使を中心としたビデオを視聴した後、館員の方から館内の展示について説明を受けた。今年は、朝鮮通信使の契機となった李朝の僧・松雲大師渡日400周年の記念すべき年で、瀬戸内の通信使ゆかりの港で、様々なイベントが行われている。第1回の研修で訪問した鞆の浦のことも思い出されて、節目の年に牛窓を訪問できたことを喜んだ。

海遊文化館での研修後、自由研修計画書④に基づき、牛窓の街で約2時間半の自由研修を行った。瀬戸内海で最も古くから開かれた港と言われる牛窓港界隈を中心に、大陸と畿内とを結ぶ経路の中継点に残された歴史や文化あるいは街並みや景観を踏査した。希望者は、神戸の震災で被災した後、その魅力に惹かれ牛窓の地へ転居し、色鉛筆画を描く御主人と共に絵本と石鹸の店を開いたという方を訪問した。御夫妻は偶然にも我々の訪問を受けた直後に広島現代美術館に日帰りの鑑賞旅行に出られるということで、不思議な縁を感じた。

午後には、まず、休憩も兼ねて国指定史跡の古窯址群が見られる寒風陶芸会館(牛窓町長浜)を訪問し、館員の方から備前焼やそのルーツとしての須恵器の歴史について話を聞くと共に、館内の展示及び館外の史跡の説明を受けた。畿内という大消費地に近く、天然の良港牛窓の港をすぐ南に持つこの地域は、飛鳥時代にはブランド品としての寒風窯産須恵器の一大生産地となっていた。その一角に立つ会館の裏山には、今だに約1400年前の古窯跡が残り、器の破片が無造作にころがっている。それは、備前地域を代表する文化の一つである備前焼が、土と火という時代を超えた自然の芸術であり、その淵源が古代の大陸と畿内とを結ぶ大動脈である瀬戸内海航路の要衝としての牛窓をおさえていた吉備王国の下道氏の交易力にあることを改めて認識させてくれる光景であった。

寒風陶芸会館を出発し、ブルーライン経由で岡山市の吉備路文学館に向かうバスの中で第8回事前研修会(30分)を行った。内容は、吉備ゆかりの作家に関する専門的知識を含むビデオ(『内田百閒(岡山県《人物》シリーズ6)』/岡山県郷土文化財団)の視聴である。

内田百閒の故郷である岡山市の後楽園の近くを通り、予定より20分程早く吉備路文学館の南駐車場に到着した。参加者に研修の疲れも出てきていたので、バスの中で仮眠を取った。今回最後の研修スポットでの研修は、南駐車場と文学館の間にある茶室庭園での散策にはじまった。迎賓館として使用される茶室庭園を館長の配慮で当日特別に開いてくれたものである。庭の木々や草木に早春の息吹を感じながら、吉備の文学の世界へいざなわれていくような雰囲気があった。茶庭裏門の板戸をくぐり抜け、吉備路文学館に入った。講演の第I部として、館長の千田洋右氏による“吉備路文学館の設立事情と活動”と題した話を聞いた。文学部出身の異色の銀行マンであった氏が当文学館を立ち上げ結果的に館長に就任するまでの経緯、吉備路文学館の特徴や運営状況、今後の課題などについて、ありのままを気さくに話して下さった。また、第II部として学芸員の奥富紀子氏に“吉備路文学館との出会いと仕事”と題して、言わば飛び込みで千田館長に熱意を伝え、当文学館の学芸員になったというエピソードや常設展示なしで3ヶ月ごとの特別展示のみで運営される文学館活動の面白さや難しさについて具体的に話していただいた。特に、今回の原田宗典展の企画の特徴について、現役作家を対象としたこと、館外での執筆ライブと館内での展示をファックスで連動させたこと、作家本人との話合

いの中で展示の内容や方法を斬新なものにしたことなどの観点から、話して下さった。それぞれの講師の話の中で、他の講師が当意即妙に解説を加えるという一種の対談的要素を持った講演であったので、参加者はフリートーク的な和やかな雰囲気の中で講演に参加することができた。

講演の後、実際に原田宗典展「我輩ハ作者デアル」を見学した。一般にはあまり例のないユニークな展示を通して、高校時代を岡山市で過ごした原田宗典氏自身の個性やその風土や時代とのかかわり、千田館長の目指す文学館のあり方、奥富学芸員をはじめとするスタッフの手作りの獨創性などに触れることができた。特別展の他、吉備路ゆかりの作家資料、備前焼展示室、日本庭園などを見学し、企画を終了した。

帰りのバス内で、参加学生に対して、研修旅行に関するアンケート調査を行うと共に、事後報告書としての「土地のたからまるかじり」（第6号）掲載の原稿執筆について確認した。途中、福山西SAに立ち寄りながら、およそ2時間半で無事広島駅に到着した。

Ⅲ. 実施後の冊子の編集 — 「土地のたからまるかじり」第6号

まず、「土地からのメッセージ」として、吉備津彦神社で行われた郷土史家・古代祭祀研究会講師の業師寺慎一氏の講演と水彩画家・元牛窓中学校長の廣畑一男氏の講話とフリートークを、学生役員がテープ起こしをして、ご本人による校正を経て、関連資料も付加していただきながら、それぞれ「吉備の中山と吉備津神社 — 吉備の中山は古代吉備第一の聖なる山 —」（p.8~19）、「牛窓の自然景観と水彩画 — 牛窓を描く／牛窓を詠む —」（p.24~35）と題して掲載した。その他、講演や現地説明やフリートークをお願いした講師の方々全員から原稿をいただき掲載した。題目と執筆者は以下の通りである

「鬼ノ城の発掘調査と整備によせて」（p.1~4）総社市教育委員会 松尾洋平

「ローカルテレビ局の地域貢献」（p.5~7）山陽放送報道部放送記者 佐藤伸朗

「閑谷学校永続への先人の思い」（p.20~23）岡山県青少年教育センター閑谷学校次長 上西節雄

「吉備路文学館の成立と役割」（p.36~38）財団法人吉備路文学館常務理事館長 千田洋右

「文学館って、こんなトコロ」（p.39~40）（財）吉備路文学館学芸員 奥富紀子

また、「たからの発掘」として参加者（教員及び学生）から寄せられた19の文章を掲載した^{注4}）。学生から寄せられた17の文章を研修エリアで分類すると、吉備路関係が5編、備前関係が3編、牛窓関係が3編、全体的なものが5編、研修とのかかわり方に関するものが1編と、多様な観点からの研修の成果が寄せられた。形式面でも、評論文的なものから紀行文・エッセイなど様々なジャンルが見られ、日本語文化を専攻する学生らしい文章が並んでいる。

表紙の「鬼ノ城より吉備路をのぞむ」の写真及びグラビアの「鬼ノ城西門礎」「鬼ノ城内側敷石」の写真は総社市教育委員会から、グラビアの「閑谷学校講堂」「閑谷学校壁書」の写真は閑谷学校資料館から提供していただいたものである。また、参加者の撮影した写真を、「ひと」「もの」「こと」の3つの巻に分け、「旅行絵巻」のコーナーに掲載した。さらに、「地元メディアの中の吉備文化 — 鬼ノ城西門復元 —」と題して、地元の新聞に載った鬼ノ城の復元工事の模様に関する記事を掲載した。最後に、過去5回研修旅行に参加してきた参加学生の「研修旅行の意義について」という文章を載せた。

Ⅳ. 第6回研修旅行における企画の多角化と安定化

研修旅行「土地のたから」を立ち上げてから6年が経ったことになる。今回の雑誌「土地のたからまるかじり」を見ると、これまでの研修旅行の企画が、ほぼ完成に近い形で運営されたことを如実に

感じる事が出来る。

まず、往路のバスの車中では、用意された研修地の予備知識を得るためのビデオが上映されて、当地に着くまでに基本的な知識は身に着けられることになっている。

さらに、当地では、それぞれの分野の講師が次々に有益な講演を行い、きわめて貴重な話が臨場感を以って語られる。講師との宿舎でのフリートークの企画など、講師の人達との交流も出来るように、その機会が設けられている。

また、研修旅行後の雑誌編集に必要な種々の役割—講演のテープ記録係、写真撮影係など—も、事前に割り当てられて、参加者の組織化も上手に行われているようである。

企画の多角化ということについては、旅行地を写生や、短歌などによって表現するという、表現活動の幅の広がりを取り入れられたことが挙げられる。

それら、様々な活動について、まとめられた学生の紀行文も、多角的な視点から書かれて変化がある。中でもこの企画に毎回参加している大学院生は、旅行中に得た視点によって問題意識を深めた跡がうかがえ、旅の意味を改めて考えさせる内容であった。

このように、研修旅行「土地のたからまるかじり」は、極めてこなれた企画として安定したと言えるように思う。企画・運営の担当者の木目細かい配慮と企画力を改めて思い知らされるものである。ただ、一言、こういった企画は、「安定した」という段階から本当に難しいという見方もあるということをつけ加えておきたい。当初は、企画の形をつけるのに非常に苦勞して、その企画の深化ということは考えるゆとりがなかったと、今からは反省的に見る事が出来る。これからは、その「深化」、つまり学生が主体的に研修を行い、生きた知識を身に着けられるということ、ますます考えていかなければならない。そのためには、一旦創った形を崩しても構わないというぐらいの意気込みが必要のようにも思われる。しかし、この研修旅行を企画することによって、筆者も何にも代えがたい勉強をし、生きた知識を得たことは確かであり、そのことがこの企画が続けられることの何よりの意義であることを痛感する。企画の更なる展開を祈念したい。

V. 研修旅行及び研修合宿についてのアンケート調査

(1) 調査の目的

2003年度日本語文化専攻研修旅行への参加学生に対して、研修旅行の内容に対する評価・意見と研修合宿についての意見を主として求めるアンケートを実施した。

(2) 調査の方法

帰りのバス内で、調査用紙^{注5)}を配布し、単なる評価点を示すだけではなく、今後の改善へ向けでのコメントを期待している旨を付言した。

(3) 回収率

当日中に17名中17通(100%)の回収を得た。

(4) 研修旅行に対する評価・意見と研修合宿についての意見

(I) (II) は研修旅行に対する評価、(III) (IV) は研修旅行に対する意見、(V) (VI) は研修合宿についての意見をそれぞれ求める項目である。

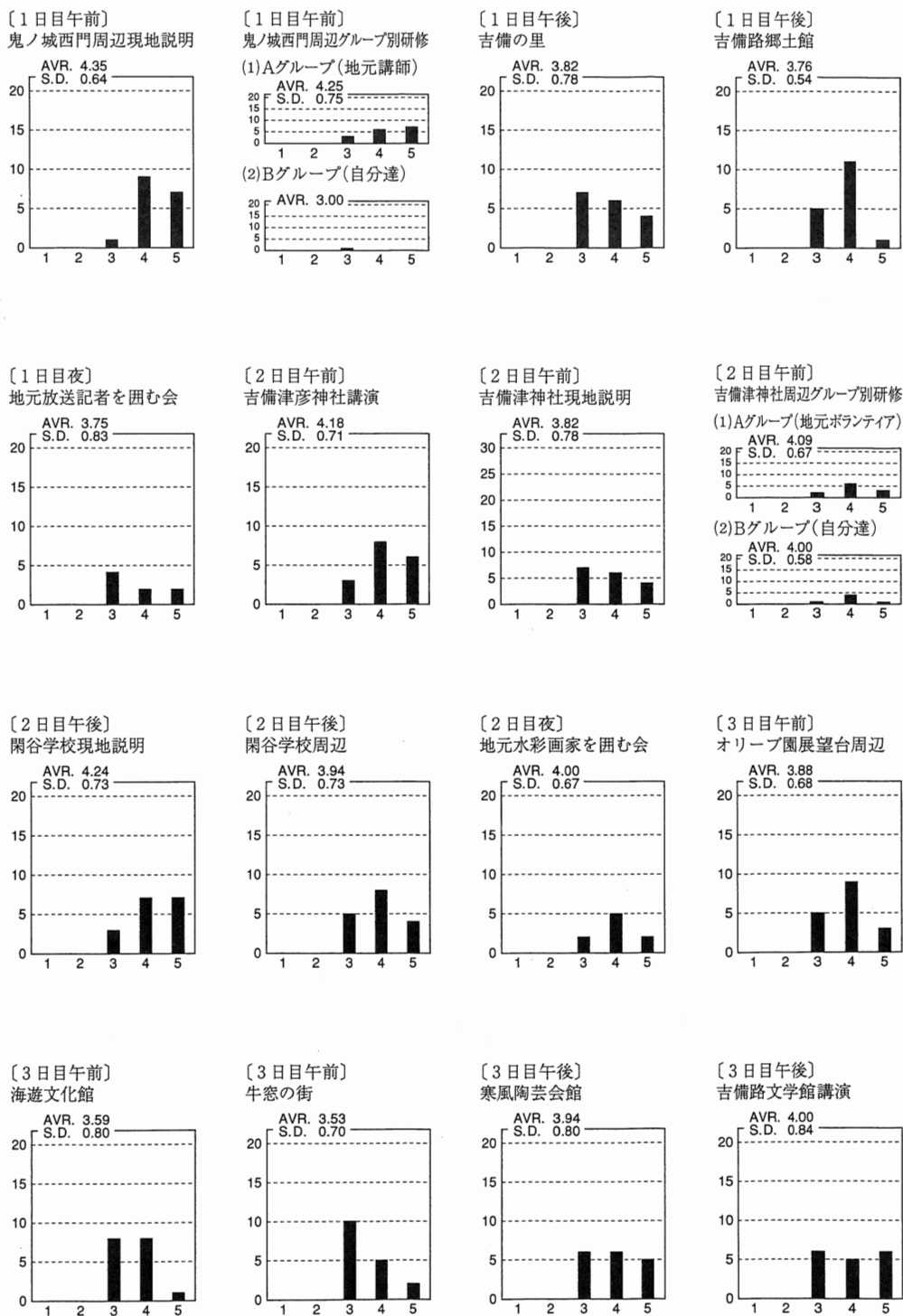
(I) (II) の評価については、5段階評価(1~5)を得点化し、ヒストグラムを作成すると共に、平均値及び標準偏差(得点のバラつき具合を示す数値)を算出した(図一1)。尚、図中の“AVR.”は平均値、“S.D.”は標準偏差を示す。

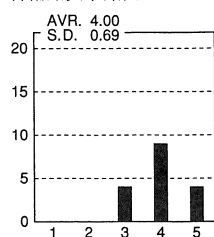
(III) (V) については、選択式による意見の集計結果を円グラフで示した(図一2/図一3)。

[研修旅行に対する評価]

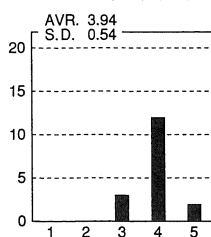
図-1

(1) 研修旅行についての自己評価

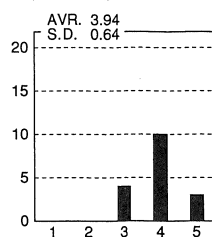


〔3日目午後〕
吉備路文学館内

イベント以外の自由時間

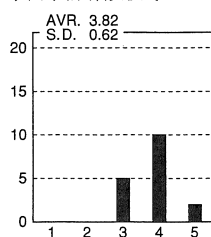


総合的達成度

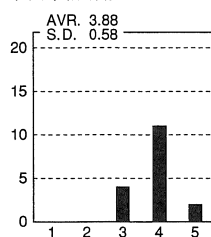


(II) 研修旅行のイベント企画について

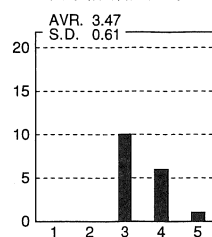
学内事前研修形式



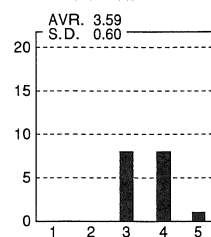
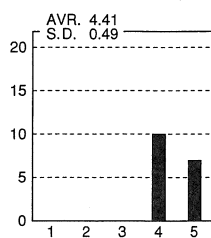
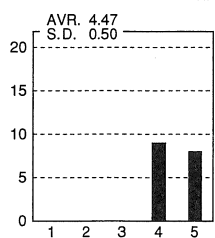
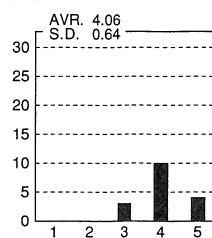
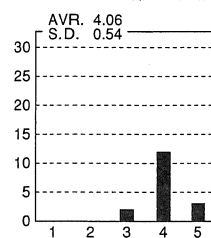
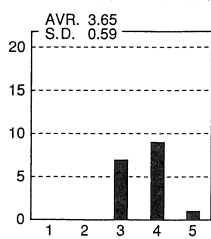
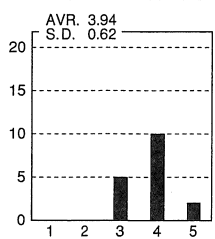
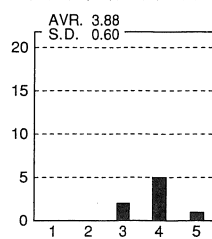
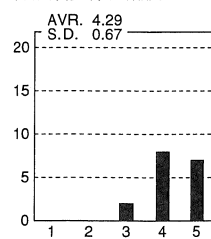
学内事前研修



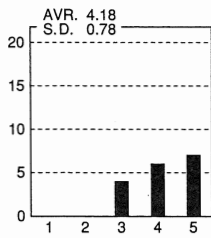
バス内事前研修形式



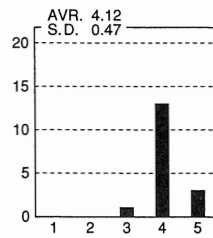
バス内事前研修

〔1日目午前〕
鬼ノ城西門周辺現地説明〔1日目午前〕
鬼ノ城西門周辺グループ別研修〔1日目午後〕
吉備の里〔1日目午後〕
必修スポットを含む形式(自由必修研修)〔1日目午後〕
吉備路郷土館(自由必修研修)〔1日目夜〕
フリーク中心の“~さんを囲む会”形式〔1日目夜〕
地元放送記者を囲む会〔2日目午前〕
吉備津彦神社講演

〔2日目午前〕
吉備津神社現地説明



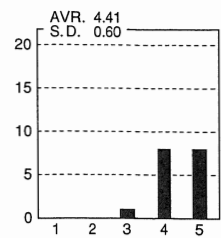
〔2日目午前〕
オプションを含む形式



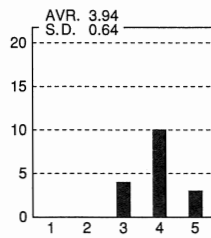
〔2日目午前〕
吉備津神社周辺グループ別研修



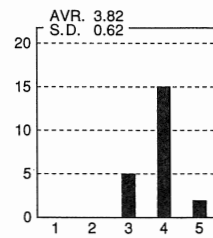
〔2日目午後〕
閑谷学校現地説明



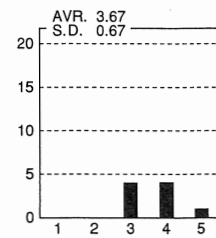
〔2日目午後〕
閑谷学校周辺



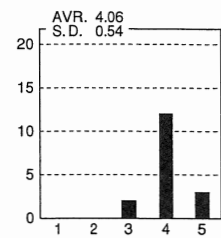
〔2日目夜〕
講話とアトワーク中心の“~さんを囲む会”形式



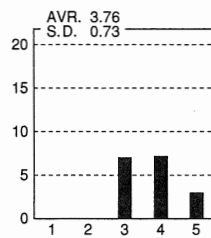
〔2日目夜〕
地元水彩画家を囲む会



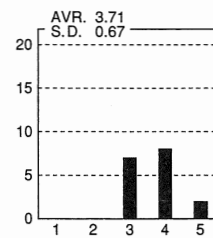
〔3日目午前〕
オリーブ園展望台周辺



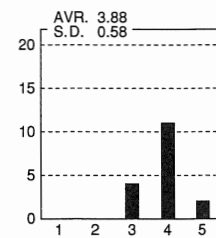
〔3日目午前〕
海遊文化館



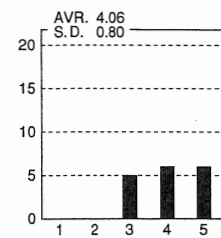
〔3日目午前〕
牛窓の街



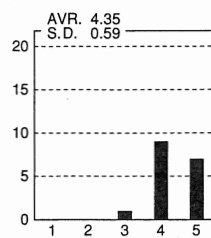
〔3日目午後〕
寒風陶芸会館



〔3日目午後〕
吉備路文学館講演



〔3日目午後〕
吉備路文学館内



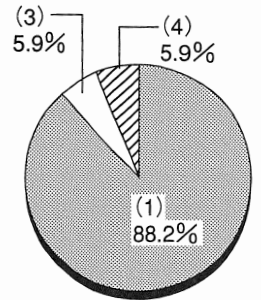
[研修旅行に対する意見]

図一2

(Ⅲ) 研修旅行の時期・日程・費用・場所について

①<時期>

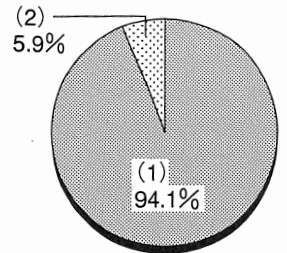
- (1) 今回のように春休み中に実施するのがよい。
- (2) 年末・年始を外した冬休み中に実施するのがよい。
- (3) 夏休みの終わりに実施するのがよい。
- (4) 夏休み始めの集中講義終了後(8月7日前後)に実施するのがよい。



②<日程・費用>

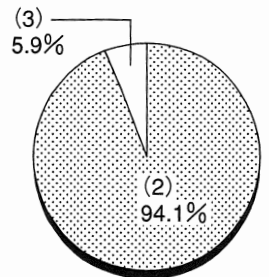
[今回の日程・費用について]

- (1) 2泊3日でよかった。
- (2) 費用を3万円程度自己負担しても3泊4日ぐらいがよかった。
- (3) 〃 4万円 〃 4泊5日ぐらいがよかった。
- (4) 〃 5万円 〃 5泊6日ぐらいがよかった。



[今後の日程・費用について]

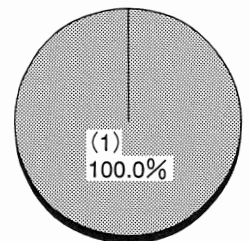
- (1) 費用1万円で行ける範囲で1泊2日がよい。
- (2) 〃 2万円 〃 2泊3日ぐらいがよい。
- (3) 〃 3万円 〃 3泊4日ぐらいがよい。
- (4) 日帰りがよい。



③<場所>

[今回の場所について]

- (1) 今回は吉備路・備前・牛窓(備中・備前地区:岡山県)でよかった。
- (2) 津和野・萩(石見・長門地区:島根・山口県)の方がよかった。(2年前実施)
- (3) 大三島・松山(芸予地区:愛媛県)の方がよかった。(3年前実施)
- (4) 横田町・出雲(奥出雲・出雲地区:島根県)の方がよかった。(4年前実施)
- (5) 福山・倉敷(備後・備中地区:広島・岡山県)の方がよかった。(5年前実施)
- (6) 岩国・大島(周防地区:山口県)の方がよかった。(未実施)
- (7) 石見・温泉津(石見地区:島根県)(未実施)
- (8) 琴平・高知(讃岐・土佐地区:香川・高知県)の方がよかった。(未実施)



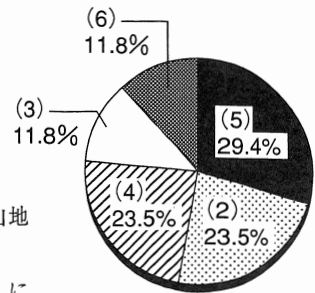
[今後の場所について]

今後の研修場所(1泊2日の日程)	1位	2位	3位	合計人数	合計得点
(2) 津和野・萩(石見・長門地区:島根・山口県)	1(0)	0(0)	0(0)	1(0)	3
(3) 大三島・松山(芸予地区:愛媛県)	4(0)	0(0)	1(1)	5(1)	13
(4) 横田町・出雲(奥出雲・出雲地区:島根県)	6(5)	1(0)	1(1)	8(6)	21
(5) 福山・倉敷(備後・備中地区:広島・岡山県)	2(2)	3(0)	1(0)	6(2)	13
(6) 岩国・大島(周防地区:山口県)	0(0)	0(0)	4(0)	4(0)	4
(7) 石見・温泉津(石見地区:島根県)	0(0)	12(7)	2(0)	14(7)	26
(8) 琴平・高知(讃岐・土佐地区:香川・高知県)	3(1)	1(1)	8(6)	12(8)	19

(注) ()内の数字は女子学生の数を、合計得点は1位:3点, 2位:2点, 3位1点とした総得点を示す。

④〈場所（特別企画）〉

- (1) 奈良地区（斑鳩・飛鳥・奈良など）に限定して実施するのがよい。
- (2) 京都地区（京都市周辺）に限定して実施するのがよい。
- (3) 奈良・京都地区に限定して実施するのがよい。
- (4) 奈良・京都地区以外でもいいが、日本の歴史・文学遺産（信州、鎌倉、日光など）に限定して実施するのがよい。
- (5) 日本の文化遺産（歴史や文学遺産）以外に自然遺産（屋久島、白上山地など）にまで範囲を広げて実施するのがよい。
- (6) 歴史的に日本文化と関わりの深い近隣諸国（韓国、台湾、中国など）にまで範囲を広げて実施するのがよい。
- (7) 特に特別企画を実施する必要はなく、現在のように中国・四国地方の地域文化に限定して実施するのがよい。

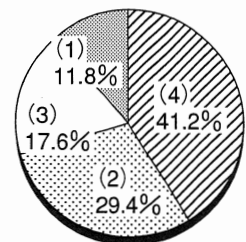


【研修合宿についての意見】

図一3

(Ⅳ) 研修旅行と研修合宿について

- (1) 費用が安くすむところ（例：広島市内公共施設 1泊2日3000円）で研修合宿を全員参加で行う。
- (2) 費用が比較的かからないところ（例：広島県内及び周辺 2泊3日2万円）で研修合宿を全員参加で行う。
- (3) 費用はかかる（例：京都2泊3日5万円／東京3泊4日7万円）が研修合宿（旅行）を全員参加で行う。
- (4) 全員参加の宿泊を伴う研修合宿（旅行）は特に必要ない。



(5) 結果の考察

① 研修旅行に対する評価

〈参加学生の自己評価〉

まず、事前研修に対する自己評価について考察しておく。第1回～第4回のそれぞれの出席率は、70.6%、64.7%、70.6%、76.5%で、平均値は70.6%となりまずまずであった。学部1年生～3年生及び大学院1年生のそれぞれの出席率は、第1回～第4回の平均値で、それぞれ70.0%、71.8%、68.8%、75.0%であり、いずれの学年も総じて熱心であった。事前研修で配布した研究参考資料（第1回5枚／第2回10枚／第3回5枚／当日用しおりの資料編11枚 [いずれもB4サイズ]）読破率は、5段階評価で示すと全体で3.53で、「半分程度読んだ」と及び「かなり読んだ」という参加学生が多かった。各自の興味や関心に応じてかなり使用したようである。

次に、当日の研修に対する自己評価について考察しておく。〈総合的達成度〉の平均値が3.94となっているように、学生は総合的にかなり成果があったと考えている点をおさえておきたい。第1回の「瀬戸内（福山・倉敷）国際交流史」をテーマとした研修旅行の及び第3回の「瀬戸内海中中部（芸予地域）の文化史」をテーマとした研修旅行の〈総合的達成度〉の平均値は、それぞれ3.20、3.31であったが、それらに比べると数値的にかなり高く、また、第2回の「島根（奥出雲・出雲）鉄の文化史」をテーマとした研修旅行の3.55、第4回の「中国地方西部（津和野・萩）の文化史」をテーマとした研修旅行の3.48、第5回の「大和地域（斑鳩・飛鳥・奈良）の文化史」の3.61と比べてもかなり高い数値となっている。標準偏差0.64と分散は小さく、評価を4とした学生が多い。今回の研修旅行のタ

イトルは‘吉備の文化を訪ねる—吉備路・備前・牛窓の文化史—’であり、目的として、‘吉備(吉備路・備前・牛窓)の5世紀～現代にかけての日本語文化に関わる民俗資料及び文化資料を、実地踏査し、古代日本の一つの中心地であった地域の文化を通して専門領域へのアプローチを行う’ことをあげている。実質的には、岡山県の総社市及び山手村、岡山市西部(吉備津)、備前市(閑谷)、邑久郡牛窓町、岡山市中心部が研修地として設定された。瀬戸内地域を主たる対象とした日本語文化専攻の研修旅行として、はじめて2泊3日(通常は1泊2日)の日程で行われた。同じく2泊3日で実施した前回の大和地域の場合、日本の文化史の上で中心的位置にあり、また比較的限定された時代(古代文化史)を対象とし、さらに、斑鳩・飛鳥・奈良というかなりコンパクト(中心エリアが1.5～2km四方に収まる)でありながら文化的に多様性を持った街で自由研修を行うということができたが、今回はそのような恵まれた条件は望めない。行くだけでもそれなりの成果や満足感を得られるというわけではないので、研修地の選定はこれまで以上に慎重に行った。一方で、前回に比して近隣地域であるので、1日目午前と3日目午後にも企画を立てることができ、準備に苦労はしたが結果的に17(昨年の大和地域では11)の多様なイベントを織り込むことができた。一般に、自由研修を行う地は、街そのものが歴史的背景を明確に持ちかつそれが比較的限定されたエリア内に集約されていることが望ましい。その点、前回自由研修を行った斑鳩・飛鳥・奈良はいずれも非常に恵まれた地であった。それら国内でも有数の歴史スポットほどではないが、吉備路(総社市・山手村・吉備津)、備前閑谷、牛窓も、参加者の目的意識次第で、いずれも有効な自由研修を実施しうる地であった。

一方、〈イベント以外の自由時間〉の平均値は3.94と数値的にはそれなりに高い(第1回:3.91, 第2回:3.61, 第3回:3.83, 第4回:4.10, 第5回:3.81)が、予想したほどではなかった。その要因として、まず、バス内事前研修(第5回～8回, 合計約2時間40分)と車酔いがあげられる。自由視聴の形式ではあったが、車酔いをした参加者が少なからずいた。乗車中の車窓からの眺めも一部区間(ブルーライン)を除いてほとんどが高速道路か幹線道路でそれほど楽しめるほどのものではなかった。もっとも、広島県北から中国山地を出雲へ抜けた第3回の時ほどの悪路はなく、バス内の自由時間の評価もそれほど低くはならなかったと考えられる。また、宿泊所は吉備路の拠点として立てられて間もない総社市の国民宿舎と、牛窓港に望む高台にあり夕陽の美しい国民宿舎であり、いずれも研修エリア内の好立地にあり、また、地域の情報の集積した施設であった。特に、前者の国民宿舎は、同じ敷地内に吉備路の観光センターが併設されており、研修の前に立ち寄ることで、貴重な情報を得ることができた。昨年の明日香村、奈良市同様に、今回の宿泊地である吉備路と牛窓は、3年前の松山の道後のように夜の自由時間に市街地に繰り出すというわけにはいかなかったが、古代吉備の国の中心地の厳かな雰囲気の中で参加者はそれぞれ旅情を味わい親睦を深めたようである。以上は、主にハード面での特徴であるが、バス内での喫煙管理、人間関係を考慮した部屋割り、夕食時間を利用した自由研修のミニ报告会、夜の自由参加形式のフリートーク兼講話会の設定(今回は2晩共実施)、教員・学生の親睦会など、企画者側によるきめ細かな配慮といったソフト面の充実も見逃せない。3年前までの研修の課題の一つであった“宿泊地・宿泊施設そのものも実地体験の場所となるようにする”という点に関して、昨年同様今年度も及第点を与えることができよう。〈研修時間〉を“正課”とするならば、〈自由時間〉は言わば“課外活動”のようなものである。研修旅行という研究教育活動全体の質を向上させるためにも、〈研修時間〉と〈自由時間〉という両輪に配慮しつつ、ソフト面を中心に充実した〈自由時間〉のあり方をさぐりながら、今回の成果をさらに今後に生かしていきたいものである。もちろん、もっとも重要なのは、自由な時間を自分なりに有意義に過ごそうとする参加学生の意欲である。今回も参加者はそれぞれの方法で自由時間を満喫していたようであるが、企画側によるその旨の明確な伝達と学生自身による理解と実行の重要性を改めて認識させられた。

17のイベントを比較してみると、それぞれ平均値4.35, 4.25とあるように、学生は、1日目午前の

〈鬼ノ城西門周辺（復元西門、吉備の景観、城壁、水門、石畳など）での地元講師（総社市教育委員会学芸員）による現地説明研修〉と〈鬼ノ城西門周辺でのグループ別（地元講師による現地説明はオプション）研修：Aグループ（地元講師と共に巡る）〉に成果を得たと感じている。いずれも今回の研修の柱となる吉備の里での研修イベントであり、両者共標高400mの山にある鬼ノ城そのものの巨大で堅固な構造物とその背景にある謎の部分も多い壮大なロマンが要因といえる。また、若手の地元講師の方による発掘担当者ならではの文化財への真摯で愛情溢れる現地説明に、参加者が感銘を受けた点も見逃せない。予備調査や下見の段階から総社市教育委員会の鬼ノ城関係者の方々には大変お世話になったが、何度かお会いするうちに、事前に本研修企画への理解を深めていただいたことも、有効な現地説明につながった。

これと同様に地元講師の方の協力を得て実施した研修イベントである2日目午後の〈閑谷学校（閑谷神社、聖廊、石塀、講堂と備前焼瓦、火除山など）での地元講師（センター次長）による現地説明研修〉も平均値4.24と高い。限られた時間の中で閑谷学校という国宝の講堂を持ち、質・量共に充実した歴史的文化施設を堪能する上で、備前焼の歴史の専門家としての著書もある地元講師の方は、わかりやすくかつユーモア溢れる現地説明で、多大な貢献をしてくださった。本学名誉教授の松下正司先生の旧知の仲ということもあり、参加者が親近感を持た点も高い評価の一因であろう。また、言うまでもなく、世界遺産への登録も目指そうとする質実剛健な歴史的建造物が、山紫水明の自然的な自然環境の中に溶け込んでいる姿に、参加者が教育の理想郷を想起した点も上げられよう。

3日目午前の〈オリーブ園展望台周辺（牛窓の景観 [日本の原風景：棚田/日本のエーゲ海]）/神功皇后伝説/オリーブ園/ローマの丘など〉での地元講師（水彩画家）による現地説明を含む研修も、曇りがちでいわゆる牛窓らしい景観を堪能することができなかったことを考慮すると平均値3.88という数値は、地元生まれ育ち、教育者としてまた水彩画家として牛窓を愛し知り尽くしている地元講師の方の奥行きのある現地説明に負うところが大きい。日程の関係で実現しなかったが、前夜開催の氏による自由参加形式のフリートークと講話を、全体研修として直前に実施していたならば、相乗効果もありかなり高い数値が出ていたであろう。また、鬼ノ城や閑谷学校のような豪壮あるいは壮麗な建造物ではなく、自然景観を主とした現地説明で出た数値としては、かなり高いと言えよう。

2日目午前の〈吉備津神社（温羅伝説、神社の祭神、本殿及び拝殿 [国宝] などの建築と歴史）での研修〉も、短い制約された時間内ではあったが、直前の講演を踏まえて、講師ならではのポイントを絞った現地説明が行われた点が平均値3.82として評価されたと考えられる。上述のオリーブ園展望台同様、もう少し時間が許せば、より高い評価になっていたであろう。限られた時間の中で、個性的で有意義な現地説明を行っていただけたのは、講師の方の能力と人柄によるところが大きい。

2日目午前の吉備津での研修では、講演、現地説明、グループ別自由研修の3つのイベントいずれも地元ボランティアの方々の協力を得たが、特に、〈吉備津神社周辺（吉備の中山）でのグループ別自由研修：Aグループ（地元ボランティアと共にイワクラを巡る）〉では、バスで10分程度のところにある榎築遺跡へ同行し、現地の案内と説明をしてくださった。弥生時代の墳丘墓としても、また、桃太郎・温羅伝説の舞台としても有名なスポットの訪問に、参加者は平均値4.09の高い評価をしている。快晴の日の昼頃、丘の上から北方に見えたのは、昨日訪問した標高400mにある古代山城鬼ノ城である。昨日の歴史的な現地説明とは打って変わって、温羅が鬼ノ城から投げた石を防いだとされる墳丘上の謎の巨大立石を前にした壮大な伝説の紹介に、参加者はロマンを掻き立てられた。歴史研究者や郷土史家とはまた異なる地元生活者の語る伝説は、生き生きとした生命感に溢れていた。研修におけるボランティアガイドへの協力要請は前回からはじめたが、法隆寺西院伽藍・大宝蔵院及び飛鳥の里での現地説明の評価の平均値がそれぞれ4.67、4.39であったと同様、吉備津でのボランティアの方々の協力の元に実施した3つのイベントの平均値は4.03でかなり高い。地元のボランティアガ

イドの方々との交流に参加者は新鮮さを感じるようである。

もっともボランティアガイドの有効な活用には事前の打ち合わせが非常に重要である。特に、今回のような自ら実地において取材し研究することを目的とした研修では、参加者自らが自分の知りたいこと興味のあることをガイドの方に事前に伝えることが大切である。今回はオプション的に現地説明を依頼したので、自由参加形式で小人数だったこともあり、対話が円滑に行われた。しかし、一般に打ち合わせが十分でないと、ガイドによる駆け足の一方的で大量の知識の注入に陥りやすい。その危険を避けるよう注意せねばならない。

4つの自由研修の中では、2日目午前の〈吉備津神社周辺(吉備の中山)でのグループ別自由研修〉及び2日目午後の〈閑谷学校周辺(資料館、椿山、津田永忠宅跡、黄葉亭など)での自由研修〉がそれぞれ平均値4.05(A及びBグループの平均)、3.94と評価が高い。1日目午後の〈吉備の里(備中国分寺、備中国分尼寺跡、こうもり塚古墳、吉備路郷土館、造山古墳、作山古墳など)での自由研修〉も平均値3.82とそれなりの評価を得ている。一方、3日目午前の〈牛窓の街(かつて栄えた潮待ち港の古い町並み/時代順の明確な古墳群/段々畑の丘陵地と海・島からなる自然景観/絵や絵本のギャラリーなど)での自由研修〉は、平均値3.53とあまり高くはない。従来のような明確に目に見える歴史遺構中心の踏査とは異なり、港町のたたずまいや丘陵地・海・島からなる景観を中心とした自由研修であったので、とまどった参加者が少なからずいたことが要因であろう。時期的にもオフシーズンの平日であり、天候も快晴とは言い難く、モノトーンの自然景観の中で街全体が閑散としていたのは事実である。もっともそれがよかったという参加者もいて、標準偏差も0.70と比較的大きいように評価が分かれた。

今回の4つのいわゆる自由研修の平均値3.88は、過去5回の研修で実施した個々の自由研修に比べて(第1回:鞆の浦3.80, 倉敷美観地区4.24, 第2回:大社町4.00, 第3回:松山3.49, 第4回:津和野町3.28, 萩3.72, 第5回:斑鳩4.00, 飛鳥4.79, 奈良4.28)それほど高くない。各回の平均値で比べれば、全6回の中の第4番目の数値である。研修エリア内の主用スポットのほとんどを全体研修で訪問したことや従来以上に人の利を得たが天の利にやや恵まれなかったことが最大の要因と考えられる。しかし、前回の特別企画を除く中国・四国地区の全5回の通常研修の中では第3番目であり、第1番目の第1回の4.02, 第2番目の第2回の4.00とも数値的にそれほど大きな差があるわけではない点を指摘しておきたい。中国地方でも有数の観光地である津和野や萩における自由研修より全体として評価が高かったのは、2泊3日の日程による時間的余裕によるところも大きいと言えよう。吉備路はエリアの広さに対する歴史遺構や文化施設の集積密度、閑谷学校は時代や文化の多様性、牛窓は歴史遺構や文化施設の多様性において、それぞれ問題があった点是否めない。時間的余裕に甘えることなく、今後も研修地・研修場所の適切な選定と用意周到な企画に力を注いでいきたいものである。尚、前回からはじめた自由研修計画書は、グループ別ではなく、個人を中心に記入した上で、所属グループとの共通行動予定を付記する形式に変更した。前回の反省に基づいた、グループへの個の埋没の危険を防ぐための処置である。

2日目午前の〈吉備津彦神社での地元講師(郷土史家)による講演(吉備の中山とイワクラ)〉及び〈吉備路文学館での地元講師(館長及び学芸員)による講演(吉備路文学館の設立事情と活動/吉備路文学館との出会いと仕事)〉は、今回の研修ではいわゆる講演として位置付けられるものであったが、それぞれ平均値4.18, 4.00とかなり評価が高かった。

前回の研修は有名なしかも遠隔地を訪問するという点で実地において踏査することに主眼を置いたため、地元講師による講演は最小限の一つにおさえた。しかし、今回は通常研修の基本に従って講演は二つに戻した。日程、研修内容、講師の専門性等を勘案し、吉備の文化史という全体テーマに直接かかわる内容の講演を、備前一宮である吉備津彦神社と財団法人の文学館である吉備路文学館で実施した。前者は、神社の広大な杜の中の新築されて間もない朝日のふりそそぐ木の香りの漂う集会所、後者は和風庭園と馴染む現代和風の外観と展示や資料保存用の近代的内部施設を持つ館の見晴らしの

いい2階ホールと、講演の場所そのものが歴史や文学の雰囲気溢れていた。講演内容も、それぞれ、備前と備中にまたがる吉備の中山の真中に在住し地元歴史研究グループの講師を務める郷土史家による聖なる山と神社の関係、文学館の設立にかかわった文学部出身の元銀行マンの館長による館の設立事情や文学館の学芸員の館との運命的な出会いについてと、興味深いものであった。また、講演者の気さくな人柄に感銘を受けた参加者が多かった。いずれの講演者とも、企画係の教員と学生は下見の段階で直接会い、講演内容や会場についての最終打ち合わせを行っている。その際、いずれの講演者も十分な時間を取って下さり、企画の趣旨や参加学生からの要望を理解した上で、実際の講演に反映して下さった。特に、郷土史家の方には下見の折吉備の中山の中間点の両国橋近くの自宅まで招いていただき、吉備の文化に関する様々な話をしていただいた。その際、講演内容に関する学生の興味や関心、理解度を確認するために、様々な質問を企画係の学生にし、お互いの意志疎通に努めておられた姿が印象的である。一昨年萩における若手学芸員による講演(平均値4.00)は別として、従来、地元講師による歴史に関する講演は、当該文化施設の館長やそれに準ずる人によるか、地元の郷土史家によるものが多い。土地の人的‘宝’としてはいずれ劣らぬ優れた方々であったが、結果としてほとんどが年配者であり、これまで参加学生の世代的な親近感を呼び覚ましにくかった。第1回の大原美術館副館長による芸術家の生涯に関わる語り部的な講演(平均値4.36)は例外として、一般に他の研修イベントと比して評価はあまり高くない。その点、80代の高齢である郷土史家の方の今回の講演に対する評価4.18は驚異的ではある。第1回～4回の通常研修における同種の講演の平均値が、それぞれ3.53, 3.11, 3.49, 3.61であった(第5回の飛鳥資料館の学芸室長による講演の平均値3.94)ことを考えると、平均値4.04は過去最高の数値である。昨年同様、研修の目的の確認、講演テーマの絞り込み、十分な質疑応答の時間の設定など当方からの要望に忠実に応じてくれたことや、講演中も適宜質問を受け付けたり参加者に語りかけたりとフリートーク的な要素が盛り込まれた非常になごやかで親近感の持てるものであったことも高い評価の要因であろう。尚、吉備路文学館館長の講演の直後に実施したく吉備路文学館(原田宗典展「我輩ハ作者デアル」/吉備路作家資料/日本庭園など)での研修は、前回の飛鳥資料館館長の講演と飛鳥資料館見学の流れと同じであるが、平均値4.00とかなり高かった。文化施設そのものの充実度と共に講演者の話の内容と連動した研修内容であった点が高い評価の要因であろう。

3日目午後のく寒風陶芸会館(古代須恵器の出土品/古窯跡/備前焼のルーツ/現代陶芸家の作品など)での研修は、これまで継続検討課題となっていたいわゆる通過点的スポットである。昼食後の眠くて疲労の出易い時間帯を考慮して、休憩の意味も含めて立ち寄ったが、時間的な余裕ができたので、当初30分の予定を1時間近くに延長したこともあり、予想外に評価は高かった。備前焼のルーツの地に残る古窯跡や寒風焼や備前焼の実物に触れ、それを支えた古代吉備の勢力の存在とその積み出し港として栄えてきた牛窓の歴史、屋根瓦に備前焼が使っている閑谷学校の意味など、吉備の文化における備前地域の位置付けを再確認できる研修場所であった。館員の方による館内の展示品及び館外古窯跡の説明の後、自由時間としたが、短い時間ではあったが、陶芸の絵付けに挑戦したり、じっくりと陶芸作品を鑑賞したり、土産の陶器を吟味したりと、具体的な‘もの’との直接的な接触を通して備前の文化に触れていた。参加者の中には、いわゆる茶道部のメンバーもいて、彼らのように焼き物に興味・関心のある学生にとっては、非常に有意義な研修であったようであるが、他の参加者も休憩も兼ねてそれぞれ多様な時間の過ごし方をしてきた。今回、通過点的スポットの扱いに関して、一点豪華主義の発想を大切に決して内容的に欲張らないこと、休憩も含めて状況に応じて1時間程度は滞在できる時間的余裕を持つておくこと、できれば体を使って気分転換ができる何かがある一方で多様な休憩方法が可能な場所を選定することの少なくとも3点に注意することが、有意義な研修につながることに気付いた。今後も検証を続けていきたい。

前回から導入しはじめた自由必修形式（自由研修の時間中に必ず訪問する）の研修イベントである1日目午後の〈自由必修研修の吉備路郷土館（吉備の歴史及び周辺の発掘出土品の展示）での研修〉は平均値3.76とますますの評価となっている。アンケートによると滞在時間は10～30分、20～90分と個々人の興味に応じて幅があったようであるが、参加者全員が必修スポットの吉備路郷土館を訪問した上での数値である点を考慮すればますますの結果と言えよう。本来なら全体研修として全員で一定時間訪問していたところであるが日程の都合上無理な場合、少なくともここだけは外せないという企画側の意図と自分の目的に応じて興味のあるところ行きたいという参加者の希望を両立させようとする試みであるが、前回同様、今回も有効であることがわかった。前は、当日に事前に入場券を購入しに行き戻ってきた上でそれを全員に配布するのにかなりの時間と労力を要したが、今回は参加者の人数がそれほど多くなかったこともあり、入場券の購入は各自に任せ、後で半券でもって清算した。団体割引を利用する場合については、今後の継続検討課題である。

一昨年度の反省から、正規の研修イベントではないことを明確にするため、自由時間の1日目及び2日目の夜に実施した自由参加形式の非公式研修イベント〈自由参加の地元放送局記者（佐藤紳朗さん）を囲む会（フリートーク：吉備の歴史・文化に関する番組制作／記者の目で見た鬼ノ城）〉及び〈自由参加の地元水彩画家（廣畑一男さん）を囲む会（講話とフリートーク：牛窓の自然景観と水彩画、牛窓の街の生情報）〉の参加者は、前者が教員3名と学生8名、後者が教員3名と学生9名であり、それぞれ55.0%、60.0%の参加率であったが、評価の平均値は3.88でそれなりの数値が出た。

若手放送記者兼番組ディレクターとして地域のメディアとして吉備の文化をどう発信していくかを1週間後に放映予定の鬼ノ城に関する番組の制作過程におけるエピソードを交えて語って下さった佐藤紳朗氏、地元牛窓に生まれ育ち地域の教師として社会科と美術科を担当しながら後進を育て牛窓中学校の校長を最後に退職された後は水彩画家として牛窓の風景を絵画に残すため日々絵を書き定期的に個展も開く廣畑一男氏、年齢も職域も全く異なるお二人であるが、吉備の文化を愛しそれを後世に伝えていこうとする真摯な姿に日本語文化を学ぶ参加者はそれぞれ感じるものがあったようである。前回の宿泊先のペンションのオーナーのような生活者兼受け入れ者の立場から、裏話も含めた生の情報を伝えるというかたちではなく、いずれもかなりまとまった話であったので、軽い観光情動的な話を予想していた一部の参加者にはやや期待外れであったようである。しかし、企画側としては議論も含めた骨のある“囲む会”を意図していたので、両氏共、議論の基調ともなる話から入って下さった点に改めて感謝したい。特に、前者はメディアにかかわる方であったので、基本的な説明の後、さっそくフリートークとなり、文化の発信にかかわる現代的な問題点について参加者との間で様々な意見の交換が行われた。

今回の研修イベントの中で先述の3日目午前の〈牛窓の街での自由研修〉と並んで平均値が3.5台だったのが3日目午前の〈海遊文化館（朝鮮通信使／唐子踊り／だんじりなど）での研修〉である。直後の〈牛窓の街での自由研修〉の参考にと考えて設定した企画であるが、平均値は3.59であった。展示内容の中で、朝鮮通信使関連の史跡は瀬戸内地域では他にもあり、唐子踊りとだんじりはやや特殊な印象もあり、30分と時間が短かった点や専門家による説明も設定できなかった点も含めて、評価は予想された結果となっている。もっとも、展示品の中に自分の郷里と共通の文化を発見して感銘を受け評価を5としている参加者もあり、個人の興味・関心によって評価が分かれていることも確認しておきたい。

以上を総括するならば、“牛窓の街での自由研修にはやや問題が残るものの、鬼ノ城・吉備津神社・関谷学校での現地説明、吉備津彦神社及び吉備路文学館での講演、吉備路と牛窓での地元講師を囲む会を中心に、ボランティアガイドの方も含めて地元講師のかかわる研修を通して、また、吉備の里、吉備津神社周辺、関谷学校周辺での自由研修を通して、吉備の文化・歴史・風土について学ぶと共に、改めて吉備地域に古代大和地域に比肩する文化があったことを認識し、また、それに関する価

値ある歴史的遺産を直接体験して感銘を受けたし、バスによる移動中のビデオ視聴による4回にわたる事前研修には多少困難を感じたが、通過点的スポットの寒風陶芸会館などで休憩も兼ねた直接体験的な研修もできるなど適度に時間的な余裕もあり、地元講師、ボランティアガイドの人たちとの交流も新鮮であったし、研修エリア内にある設備の充実した宿舎で気の合う友人と共に有意義な時間も過ごせ、意欲を持って研修に参加できた”という参加学生の平均像を思い描くことができよう。

〈企画に対する評価〉

まず、事前研修に対する評価について考察しておく。第1回～第4回の学内事前研修形式及びその企画内容に対する評価の平均値は、それぞれ3.82、3.88であった。また、第5回～第8回のバス内事前研修形式及びその企画内容に対する評価の平均値は、それぞれ3.47、3.59であった。第1回～第4回のねらいは、点、面、空間、全体のまとめと段階を追った研修スポット及び研修エリアの理解であった。第5回～第8回のねらいは、吉備の国、吉備津神社、備中国分寺、津田永忠、備前焼、牛窓、内田百閒に関する自治体や歴史文化研究団体の制作したビデオを視聴することによって、参加学生が自己の問題意識の喚起に資すると共に、事後の研修レポート作成の参考とすることであった。いずれの企画も以前より課題となっている‘参加学生自身の研修テーマの意識化と絞り込み及びそれを補完するフィールドワークの方法に関する指導を含む事前研修の設定’の解決策の一つとして前回の研修に引き続いて実施したものである。4つの自由研修の前にそれぞれあらかじめ自由研修計画書を提出させたのもその補完策の一つである。以上のような企画側の意図や願いが参加学生に十分に伝わっていたか定かではないが、車酔いに悩まされた参加学生が少なからずいたバス内事前研修形式はともかく、全体としては前回並みの評価が得られた。バス内事前研修をスリム化する形で今後も継続したい。

次に、研修のイベント企画に対する評価について考察しておく。日本語文化学会の研修旅行役員（学生及び教員）が中心になって考案した研修旅行のイベント企画に関しては、17のイベント企画の平均値が4.03となるように、参加学生はかなり高い評価をしている。標準偏差の平均値も0.64と分散が小さい。上述の〈総合的達成度〉の3.94と勘案すると、参加学生は、全体としては、企画そのものの充実度をかなり認めた上でその完全消化のためには自らの意欲と行動の質の向上が必要なことを認識し努力した結果となっている。

特に、〈吉備津神社内での現地説明全体研修（温羅伝説、神社の祭神、本殿及び拝殿〔国宝〕・回廊などの建築と歴史を通じた吉備の文化の理解〉、〈吉備路文学館内（原田宗典展「我輩ハ作者デアル」／吉備路作家資料／日本庭園など）での全体研修（展示品・映像資料を通じた近現代の吉備の文学の理解〉は、企画に対する評価と自分自身に対する評価との間に、それほど大きくはないが、それぞれ0.36、0.35の差が出ている。両者ともゆりのある時間という企画の基本条件への問題を多少感じながらも、それ以上に、両者共、吉備津神社や吉備路に関わる作家に対する事前研究や問題意識の設定が十分でなかったという意識があった結果がこのような数値として出てきたと考えられる。しかし、今回の研修企画は、〈吉備路郷土館〉〈自由参加の地元水彩画家（廣畑一男さん）を囲む会（牛窓の景観と水彩画を中心に地元の生活者〔元小学校・中学校教員〕兼水彩画家の目を通して見た牛窓の実情や生情報を聞くことによる牛窓の文化の理解〉〈寒風陶芸会館（古代須恵器の出土品／古窯跡／備前焼のルーツ／現代陶芸家の作品など）での研修（備前焼のルーツとしての須恵器の生産と出荷を通じた備前（特に牛窓）の文化の理解〉の3つを除くと、企画に対する評価が自分自身に対する評価よりも高いものが多く、総じて企画そのものが評価されていると言える。

個人研修ではなく集団研修の形式には、親睦以外に“集団で行く”ことの必然性が必要となる。その点を考慮して本研修企画には必ずなんらかのかたちで“地元講師による講演”を入れるようにしている。“地元講師による講演”を基本としているが、第2回のように、文化施設そのものの持つ内容に即してより簡潔にかつ自由に質問ができるかたちとして、いわば現地での地元専門家による“立ち

合い説明会”としてのイベント企画を行ったこともある。また、第4回では、従来型の講演に加え、“フリートーク”という新しい形式を導入した。その際、自然発生的にはあるが、フリートークの後、担当講師が現地説明を行い、“フリートーク”と“現地説明会”が一体化した結果、高い評価（自己評価及び企画評価共に、4.67）を得たグループ研修もあった。前回の第5回は、自由研修を重視するという基本方針にしたがって、“地元講師による講演”を1回に限り、自由研修の中に“地元ボランティアガイドによる現地説明会”を2回設定（斑鳩では必修／飛鳥ではオプション）したが、今回は一転して、地元講師による講演（2回）、現地説明（4回）、フリートーク（2回）を計8回実施し、“集団で行く”研修の柱とした。“講演”以外に、地元講師（ボランティアガイドを含む）による“現地説明会”や“フリートーク”なども、今後も有効なスタイルの一つとして実施していくべきであろう。

この他、個々の研修企画への参加方法として、前回導入した“オプションを含む自由研修形式”と“必修スポットを含む自由研修形式”を今回も実施したが、これらに対する評価は、それぞれ、平均値4.12（前回は4.31）、4.06（前回は4.25）であった。前回同様、今回も両者ともかなり高い数値が出ている。特に、後者は現実的には自由研修における参加学生自身の自由裁量時間を減少させることになるが、研修エリア内における地理的位置も考慮した上で、価値ある史跡や文化施設を設定することは、むしろ自由研修にある程度の方向性を持たせることにもなり、参加学生個々の持つ問題意識の深化と拡大につながる可能性を有すると考えられる。その点が評価の高さにつながっているようである。もっとも今回必修スポットとした吉備路郷土館は、従来実施してきた自由研修前の講演の代わりとしてやむを得ず選定した面もあり、前回の飛鳥寺や万葉文化館とは事情が異なる点は付記しておきたい。

今回の研修を通じて、改めて研修イベント間の相関を考慮することの重要性が見えてきたことを指摘しておきたい。前回の飛鳥での研修イベントは前述のように総じて高い評価になっていた。それは、研修の中日という日程、飛鳥の持つ文化的価値、各研修イベントの内容以外に、“地元講師による講演（講演研修）”と“文化施設の展示の見学（館内研修）”と“実地踏査（自由研修）”が連動して巧く機能したことが要因として考えられる。視点が絞られかつ興味深い内容の講演によって興味を喚起され、飛鳥資料館内で実物や模型を通じてシュミレーションし、その上で実地踏査へ出るという流れが相補的に実行された。この点に関して言えば、今回は必ずしも理想通りにはいかなかった。例えば、日程の原案では、一日目午前、総社に到着直後、総社市埋蔵文化財学習の館に立ち寄り、講演を聞いた後に鬼ノ城へ行って現地説明を受けることを考えていた。しかし、実際に現地視察を行った結果、鬼ノ城への道は狭い山道で、中型バス（29人乗り）が限界で、対向車があれば、登頂にはかなりの時間がかかることがわかった。また、現地の関係者から、鬼ノ城の西門復元工事がマスコミで報道されるようになって午後からは一般の見学者の車でかなり混むので午前中に行って帰る方がよいとの助言を受けた。午後は、自由研修の時間を最低4時間程度は確保したかったので、結局“吉備の里”の自由研修の前にいわゆる“講演”を設定できなかった。前回の斑鳩・飛鳥・奈良に比較して、研修エリアの広さの割には有名な歴史遺構や文化施設がそれほど多いわけではなく、例えば、全国で4番目の規模で、造営当時は日本最大の古墳として有名な造山古墳は、宿泊施設からは5キロ近い距離がある。国分寺周辺の風土記の丘以外の地に行くには、かなりの移動時間を必要とした。吉備の里での自由研修の成否は、訪問地の絞り込みにかかっていた面が強い。その意味で、講演は必要であったが、日程の都合上設定できず、参加者自身の努力による問題意識の喚起に委ねざるをえなかった。吉備津神社では、講演と現地説明の間に、吉備津神社に関する展示のある文化施設でもあれば訪問したかったが、残念ながらそのような施設はなかった。一方、閑谷学校では、現地説明の前後に、全体研修で閑谷学校資料館を訪問したかったが、時間的にやや無理があり、自由研修での訪問に任せた。牛窓ではいわゆる“講演”に代わるものとして、自由参加形式の“～さんを囲む会”とし、現地説明を全体研修としたが、〈海遊文化館〉のようなやや特殊な文化施設は訪問できたが、牛窓全体の歴史や文化を総合

的に学べる本格的な文化施設がなく、企画側の思い通りにはいかなかった。研修イベント間の相関を考慮した企画という面に関しては、課題が残る結果となった。

以上のような研修内容や研修方法を根底から支えるものが、やはり優れた研修地や研修場所である。今回は、斑鳩・奈良という世界遺産に登録されている地域、飛鳥という日本という国の発祥した地域と、いずれも深くまた多様な文化を擁し、また、文化施設も充実しており、素材として申し分なかった。たとえて言うならば、少々料理法が稚拙でも、素材の良さでごまかすこともできた。しかし、地域文化を対象とする従来型の研修旅行ではそうもいかないことを、今回の研修で痛感すると共に、その難しさゆえの価値にも改めて気付かされた。今回は、研修地や研修場所についての前回との落差を補う意味で、多様な研修方法やリアルタイムの話題性のある地域やスポットの選定など、従来以上に企画を充実させようと努力したが、やはり素材そのものの良さも重要である。単なる観光ではなく深みのある真摯な研修とするためにも、参加者の個別の知的欲求を満たし得るだけの歴史的背景と多様な地域文化を包含し、かつそれらを詳細にかつわかりやすく紹介してくれる文化施設を有する比較的コンパクトなエリアを研修地として調査・発掘していくことは欠かせない。その意味で、教員と学生の双方が幅広く情報を集め、互いが連携して企画を練り上げるシステムの確立が今後の課題と言えよう。

② 研修旅行に対する意見

ここでは、〈時期〉〈日程・費用〉〈場所〉についての全体的な意見を確認した上で、個々の意見・コメントの中からいくつかを取り上げ考察しておく。

〈時期〉としては、今回のように“春休み中”が適当と考える学生が88.2%と大半を占める。参加学生自身の間でも研修旅行は学年末という意識がかなり定着し、日本語文化専攻の年中行事の一つとしてほぼ定着したようである。“春休み中”以外にも、合計で11.8%あるにはあるが、現実問題として実施時期を変更するのは難しいであろう。

〈日程・費用〉に関しては、今回については、〈2泊3日〉が94.1%、〈3泊4日3万円〉が5.9%である。1泊2日で実施した第1回～第4回の同様の調査では、〈2泊3日2万円〉がそれぞれ11.1%、31.6%、22.9%、37.9%で、実際に2泊3日で実施した前回の第5回は91.6%であったことを考えると、数値に増減はあるが、費用はかかっても2泊3日を中心に日程の延長を希望する参加学生が増える傾向にある。一方で、一般に学生は費用がかかることを極端に嫌う。現実には、費用がかかるため参加を断念する学生もいることを想定する必要があるだろう。今回は、助成により、参加者の個人負担を比較的低くおさえることができた。宿泊所も文化を体験する研修の一部及び学生の安全の確保という考えから、それなりの宿泊所を選定するようにしているが、研修の参加者を増やすためには宿泊費の圧縮も一考の余地があるだろう。参加学生にとっても、研修の自己達成度を考える場合、現実的にはかかった費用を無視することはできないであろう。仮に〈2泊3日2万円弱程度〉なら、最近の傾向を考慮すると、相当数の学生が日程の延長を支持するのではあるまいかとの予想を立てながら、今後についてもアンケートしてみたが、〈2泊3日2万円〉が94.1%、〈3泊4日3万円〉が5.9%で、〈1泊2日1万円〉〈日帰り〉の希望者はいなかった。もっとも、この数値が参加者を対象とした調査の結果によるものである点は忘れてはならない。今回の研修に参加しなかった学生の中には〈1泊2日1万円〉や〈日帰り〉の希望者がいた可能性も念頭に、今後の継続的検討課題の一つとしておきたい。また、費用面の負担の増大しないかたちでの日程延長を実現する意味でも、助成金の確保と安価でそれなりの質を持つ公営宿舎を中心とした宿泊所の選定に努めていきたい。

〈場所〉については、〈今回は吉備路・備前・牛窓（備中・備前地区：岡山県）でよかった〉とするものが100%で、参加学生全員が研修地に関しては支持しており、設定された研修地を納得した上で参加していることがわかる。研修としてははじめて訪問する地域であり、前回の大和地域との関連も含め、話題

性のある鬼ノ城(古代山城)・牛窓(文化庁選定の文化的景観)、国宝を持つ吉備を代表する史跡である吉備津神社(温羅伝説)・閑谷学校(世界遺産登録推進運動)のある地域であったことが支持率を高めた要因と言えよう。〈場所〉の選定には、当然のことながら〈時期〉〈日程・費用〉などの制約を伴うが、何回か研修旅行を実施し、その結果を分析・検討していく中で最低限4つの基本的なモデルを設定し、それを事前に学生に告知できるようにしたいという構想を持ち続けている。6回の研修を終え一つの区切りを迎えた今、条件が整えば、その構想をいよいよ具体的なかたちにする時期が来ている。その際、仮に4年後に同じ場所に行くことになっても、それらの研修場所にふさわしい研修テーマを策定し、かつ社会状況を見据えながら少しずつ新しい視点を加えていくことによって研修内容のマンネリ化は防げるであろう。例えば、鬼ノ城の発掘状況は全体の数%にすぎず、復元中の城門一帯が完成するのもまだ先のことであるが、いずれまた、機会を見つけて訪問したいものである。また、今回のように日程の延長が可能ならば、今後も4年間に一度ぐらいは、世界の中の日本という地域文化を理解するために、京都や奈良などの伝統的な日本文化の代表地、あるいはその他世界遺産に登録されたような日本の旧跡や名勝を訪ねる企画があってもよかろう。今後の場所(1泊2日の日程)については、〈石見・温泉津(石見地区：島根県)〉が26点、〈横田町・出雲(奥出雲・出雲地区：島根県)〉が21点、〈琴平・高知(讃岐・土佐地区：香川・高知県)〉が19点と希望者が多かったが、票が分かれた感もある。6回実施してくると、既実施の研修地区でも現在の学生には魅力があるものである。これはあくまで1泊2日という日程を前提とした案ではあるが、未実施の地区を中心に、既実施の地区も射程に入れながら、今後の企画に反映させたい。

特別企画の訪問場所については、様々な考え方に分かれたが、合計100%すなわち参加学生全員が、前回のように中国・四国地域を越えて研修地を設定することを支持していることがわかる。その中に近隣諸国にまで内容あるいは範囲を広げてもよいと考える学生が11.8%(前は22.2%)いることは興味深い。前回同様、今回の研修においても、歴史的に古代日本がいかに大陸文化の影響を受けてきたかが再認識されたが、一昨年の同様のアンケートでも、20.8%の学生が、韓国・中国・台湾などへの訪問を支持していたことをも考慮しながら将来的に実現の可能性を探ってみてもよかろう。また、今回は、牛窓という自然景観に特色のある地区を研修場所としたが、日本の文化遺産以外に自然遺産にまで範囲を広げてもよいと考える学生が29.4%いることも注目される。学科改組が行われ、今年度から言語文化学科日本語文化専攻は言語文化学科日本語文化コースとなり、4年後の完成年度には、完全にコースに移行し、事実上いわゆる歴史分野がなくなる。日本の歴史そのものを学ぶことは、日本語文化の前提となることに変わりはないが、それでも日本語文化コースとしての研修旅行は内容的に多少変容していくことが予想される。しかし、当面の間は、今回の訪問場所の選定については、いわゆる歴史分野も考慮しながら中国・四国地方を中心に九州・近畿地方も視野に入れながらまだ行っていないところをその年度ごとに設定していくことになろう。将来的には、特別企画も含めて、研修内容を再考した上で、研修場所をあらかじめ体系立てて設定できるようになれば有効である。

以下、研修のあり方についての意見・コメントからいくつかを取り上げながら、その問題点やあるべき姿を探っておきたい。

日程に関しては、「閑谷学校周辺での自由研修では資料館だけで時間がなくなってしまった。黄葉亭や津田永忠宅跡などにも行きたかった。(2年女子)」「吉備路文学館は面白かったのですが、もう少し見たかったが時間が少なくて残念だった。(3年女子)」「全体としてももう少し時間の余裕がある方がいい。研修を実施する場所をもう少し少なくしてもよいのではないかな。(3年女子)」「今回は少し日程をつめすぎているように思った。もう少しゆるくしてもいいのではないかな。(3年女子)」「バスのにおいやゆれの苦手な自分にとってバスによる移動はきつかった。(1年男子)」があるが、一方で、「吉備の里の自由研修は時間がたっぷりあっていろいろと見てまわることができた。適度に自由時間がありよかった(2年女子)」というコメントもあった。今回は、中国・四国地区における通常研修

として、はじめて2泊3日の日程で実施したこともあって、盛りだくさんの内容になったことは事実であり、それを窮屈に感じた参加者がいたことは不思議ではない。一方で、企画側としては割愛せざるを得なかった講演の時間が、結果として吉備の里での自由研修に余裕の時間が与えたようである。日程立案の難しさを改めて感じさせられるが、全体的には有効な日程であったようである。日程に対するコメントは、学年段階による知識や研修旅行への参加経験などによって分かれる傾向があるが、今後はもう少しスリム化する方向で考えてみたい。尚、研修にバスを利用することに関しては、補助金や機動性の確保という観点から他の交通手段への変更は現時点は難しいことを確認しておきたい。

研修地や研修内容については、「はじめて参加したが、とても有意義だった。1年に1度は、有志を募って行きたい研修である(1年男子)。「今回の研修旅行は本当によかった。日本文化に対する感性的な理解をこれまで以上に深めることができた。これからもこのような研修旅行があれば、また行ってみたいです。(1年男子)」「初めての参加で、研修は堅苦しいものと思っていたが、自由な雰囲気の中で深い知識を得ることができ、大変楽しかった。(1年男子)」「自分の場合、鬼ノ城と吉備の古墳の踏査で、これ以上ないほど目的を達成できた。(2年女子)」「日本文化の原点の一つとも言える重要な場所に行っているいろいろなものを見、感じる事ができた。(3年女子)」「この研修は自分だけではなかなか行けないところへ行けるのが最も魅力のあるところだ。何回でも参加したい。(3年女子)」「本当に様々な人の話が聞けてよかったし、個人で行ったのではよくわからないことを教えてくれたので、得るものが非常にあった。(3年女子)」「勉強不足を痛感したが、違う考えに触れたり、知らない話をきいたりすることで、これまでとは違った知識や思考法を得ることができた。(3年女子)」「事前研修で事前に学ぶことによって、本番がわかりやすくなる。回を重ねるごとに理解が深くなった。(1年男子)」「第1回～4回の事前研修では、温羅の伝説が一番面白そうに興味を持った。(1年男子)」「バス内で見えたビデオは楽しいもので、時間を無駄に使わなかったのでよかった。(1年男子)」「ビデオの内容は面白く、バラエティーに富んでいた。(1年男子)」「バスの中で見たビデオの中では内田百閒に関するものがよかった。(3年女子)」「鬼ノ城西門周辺での現地説明では、講師の松尾さんと直接話ができて本当によかった。(2年女子)」「地元放送局記者の佐藤さんの話はとても楽しいものだった。(1年男子)」「薬師寺先生の講演とトークが研修中では一番面白かった。(1年男子)」「閑谷学校は講堂をはじめ学校全体が美しい姿で残っていて見ているすがすがしい気持ちになった。(1年男子)」「オリーブ園展望台周辺での現地説明はながめがすばらしく、講師の先生の話もわかりやすかった。(1年男子)」「海遊文化館の係の人の話は面白かった。(2年女子)」「海遊文化館の唐子踊りのビデオや展示は謎めいて面白かった。(1年男子)」「牛窓の街はエリアが限定されているのであまり疲れなかった。木造船が見られてよかった。(2年女子)」「牛窓は町並みも住む人も素朴な感じがよかった。(2年女子)」「寒風陶芸会館では、焼き物の絵付けをした。仕上がりが楽しみである。(1年男子)」「吉備路文学館での講演は大変楽しいものであった。(1年男子)」「吉備路文学館の館長さんも学芸員の方も人間としてすごい人だと思った。学芸員の仕事の内容もよくわかりよかった。(1年男子)」「吉備路文学館の講演者の話のご両人共今後役に立てられるものであった。(2年女子)」「吉備路文学館はまるで美術館のように洗練された展示がしてあった。(1年男子)」「吉備路文学館の原田宗典展は、作者を生で感じるができる展示であった。(1年男子)」など、研修地や研修内容に対する肯定的なコメントが多かった。

一方で、「国分寺を必修スポットとする方がよかったと思う(1年男子)」「吉備路にはもう少し規模の大きな郷土館があればいいのと思った。(3年女子)」「海遊文化館の展示内容は既に知っていることも多くやや新鮮味に欠けた。(1年男子)」「吉備津神社の現地説明は、後の方では少し聞こえにくいことがあった。ハンドマイクがあればよかった。(2年女子)」「できれば閑谷学校の講堂内で現地説明や講話を聞きたかった。(大学院1年)」「研修前の事前研修は4回に分けなくても、2、3日前に集中的に

やってもいいのではないか。(2年女子)」「第4回の事前研修のビデオの内容は、自分には専門的すぎて少しわかりにくかった。(2年男子)」「バス内で見たビデオの内容は興味深かったが、研修後の旅行記にどう活かすかという面では慣れていないと少し難しいものがあったと思う。(4年男子)」「ものすごく見てまわるところが多く、少し何が何かわからなくなってしまった点もあった。もう少し見てまわる所を絞るべきであった。(2年男子)」「勉強不足を痛感した。テーマを絞りきれず、あれもこれもとよくばりすぎた気がする。(2年女子)」「もう少し娯楽を増やしてもいいかなとも思った。(2年男子)」など、特に、下位学年に、専門研究へ繋がる研修のテーマの理解と実地踏査についてとまどいを感じている参加学生がおり、それを危惧する上級生がいた。学生の成熟度に応じて研修の成果は異なってくるのは自然なことであるが、今回のような事前研修の設定や計画書の提出などによってある程度の個人差を補えることもわかった。今回の研修参加学生17名の内、1年生は5名、専門研究に入る直前の2年生は6名で、参加学生の約7割が下位学年であったが、企画の中心として活躍したのは1年生であり、また、2年生は前回の参加者でもあり、研修に対して非常に熱心であった。したがって、研修の成果のレベルと学年が必ずしも一致するわけではないが、一般的には、やはり下位学年ほど研修の理解度や達成度は低い。可能な範囲で参加者の学年構成も考慮して研修内容を設定することは有意義であろう。

研修の方法に関しては、全体としては、特に否定的なコメントはなかった。

事前研修については、「第1回～4回の事前研修で、研修全体の予定が明確にわかり対応しやすくなった。(2年男子)」と好意的に受けとめているコメントがあった。しかし、「第1回～4回の事前研修の中には、個人的に理解しにくいところもあった。(1年男子)」、「少し酔いかけていたので内容があまり頭に入らなかった。(1年女子)」「時間を有効に使えていいが、バスに酔う人には無理だと思う。(2年男子)」といったように、個別的な問題点の指摘もあり今後の参考になった。

実地踏査という研修の方法に関しては、「吉備の里では、踏査の範囲をしぼることで一箇所一箇所を深く見学することができた。(1年男子)」「文字で読むだけでなく、実際に目で見て体験することでかなりいろいろなことを学べたと思う。(2年女子)」「温羅伝説のような伝承を調べるにあたり、フィールドワークが重要なことがよくわかった。(3年女子)」など、対象を絞り、実際に自分の足で土地の文化を直接体験することの意義に言及したものがあつた。

前回から試みはじめた研修形式に関しては、「放送局記者の佐藤さんの話は人生論的なところもあって面白くなった。(3年女子)」「水彩画家(廣畑一男)さんを囲む会に参加することで事前に翌日に見るべき所を決めることができた。(1年男子)」「廣畑先生が本当に絵をかくことが好きで、楽しく描いていることが伝わってきて、自分も楽しくなった。(3年女子)」のように“～さんを囲む会”の効用に触れたもの、「地元ボランティアの人が案内してくれた榎築遺跡では、無造作においてある石が実は祭祀用であることを教えてもらい驚いた。(2年女子)」のように、オプションとして地元ボランティアの方に協力を要請する有効性を述べたもの、「鬼ノ城では現地説明の松尾さん自身が楽しそうに話してくれたので、自分自身も楽しくなり、いろいろと質問をしたり、考えたりして、鬼ノ城の発掘調査について興味を持てた。(2年女子)」「松尾さんの話は興味深く、話の後、自分たちのグループの質問に対し、気さくに分かり易く答えてくれたので非常にうれしかった。(2年女子)」のようにフリートーク的な要素を含んだ講演や現地説明の効果にふれたもの、「必修スポットはもっと増やしてもいいのではないだろうか。(1年男子)」のように、必修スポットを含む自由研修企画の意義を指摘したものなどがあり、新しく導入した研修形式を支持するコメントが多かった。

自由研修に関しては、「グループのみんなで自由研修の計画書について話し合うことがいい勉強になった。(3年女子)」「大学生なのだから自主性を持って自由研修を中心に行動してもよいと思う。ただ、講演、現地説明など団体行動の利点にも着目すべきだと思う。(3年女子)」など、貴重なコメントが寄せられた。

今後の研修企画として、“世界遺産への登録推進運動”を行っているところを中心に研修地区を設

定することに関しては、「そのような企画があってもいいが、範囲が限定されすぎる可能性があるので、もう少し広げて考える方がいいのではないか。（1年男子）」「その取り組みの様子を見ることができれば、それはそれで面白いと思う。（3年女子）」「うまく順路が組み立てられるのならば実施しても問題ないと思う。（大学院1年）」など肯定的なコメントが見られた。

研修旅行を有意義なものにする上で、研修内容と共に研修方法の整備は重要課題である。しかし、従来からも指摘してきたように、参加学生の側の研修テーマに関する問題意識の喚起と絞り込みが基盤となることも忘れてはならない。企画側（教員や学生役員）が、参加学生のニーズに配慮しながら立ち上げた研修テーマの基本的な趣旨を理解した上で、参加学生一人一人が個別に自分の課題を設定し、事前研修と実地研修を通して解決していくことが求められる。今回はそのための試みをいくつか実行し、成果を得ることができた。

以上の考察を通して明らかになった今後の課題は、「中国・四国地方を中心に、九州・近畿地方をも含めた地域を対象とした通常研修企画の日程延長（2泊3日）に適切に見合う研修イベントの充実化及びスリム化の検討」「必修スポットを含む形式の自由必修研修の運営方法の検討」「教員と学生の協働による研修地選定システムの確立」「4年間を1サイクルとした研修旅行計画の策定」ということになる。今後の研修の企画・運営・実施に生かしていきたい。

③ 研修合宿についての意見

全員参加形式の研修合宿については、7年前に1度試みた後は諸事情により実施していないが、今回のような自由参加形式で移動を伴う旅行を中心とした研修に参加した学生がどのように考えているかを調査する目的でアンケートを行った。ここでは、〈研修旅行と研修合宿〉の関わりについての全体的な意見を確認しておきたい。

“全員参加の宿泊をともなう研修合宿”を行うことに対しては、41.2%の学生が“特に必要ない”としている。一方で、(2)の“費用が比較的かからないところ（例：広島県内及び周辺2泊3日2万円）”で、研修合宿を全員参加で行う”が29.4%、(3)の“費用はかかる（例：京都2泊3日5万円／東京3泊4日7万円）”が研修合宿（旅行）を全員参加で行う”が17.6%、(1)の“費用が安くてすむところ（例：広島市内公共施設1泊2日3000円）”で研修合宿を全員参加で行う”が11.8%と、今回の研修に参加した学生の58.8%は、“費用がかからない”という前提はあるものの、“全員参加形式の研修合宿あるいは研修旅行”に対して積極的であり、従来（第1回：35.5%／第2回：47.3%／第3回：40.0%／第4回：31.2%／第5回：55.7%）よりも高い数値となっている。この種の研修に熱心ないわゆるリピーター学生が数多く参加していたこと、今回の研修旅行で研修そのものの価値が再認識されたこと、過去の研修合宿の経験者が皆無となり困難さより郷愁や理想が先行したことなどが要因であろう。しかし、今回の参加学生の過半数以上の41.2%が否定的であることも事実である。また、アンケートの母集団を日本語文化専攻の学生全員に広げた場合、高い支持が得られるかとなると甚だあやしい。「専門研究への自主的なアプローチ方法」としての全員参加形式の研修合宿に対して、一般に学生はあまり積極的ではなく、現実的には困難な面が多い。

以上の結果が示すように、現時点で、全員参加形式の研修合宿を単独で行うことは難しいと言えよう。したがって、現実的には、今回のような研修旅行を実施する中で、学生の問題意識をより明確にさせ（例えば、研修旅行前あるいは旅行中に自主研修の計画や成果について発表する時間を設定する）、研修の内容を授業内容と関連付け（例えば、スタディスキルズや日本語文化入門などの授業で、教員が自分の研究と地域文化の研究との接点について話す時間を設定する）、なるべく多くの学生の参加を促し（4年間単位であらかじめ基本的なコースとテーマを設定しておき、在学中に一度は参加するように奨励すると同時に大学院生や卒業生も含めた日本語文化学会の親睦会的要素を加味する）ていくことが大切であろう。また、単位化した授業の一環としての実施（今年度からはじまった新学科の日本

語文化コースでは設定されている)も視野に入れる必要があると考える。今後の検討課題としたい。

終わりに

昨年度の課題として残った‘通常研修企画の日程延長(2泊3日)’、‘自由研修計画書の運用方法’‘通過点的研修スポットの扱いの検討’に関しては、比較的うまくいったのではないと思われる。それぞれ、‘イベント企画の多角化と充実化’、‘個人研修とグループ研修のバランスを考慮した自由研修計画書(①～④)の提出’、‘身体的体験を含めた内容の絞り込みと休憩も含めた余裕のある時間設定’という方法で、今回はおおむね解決できた。しかし、‘教員と学生の協働による研修地選定システムの確立’‘中国・四国地方を中心に、九州・近畿地方をも含めた地域を対象とした研修企画の日程延長(2泊3日)に適切に見合う研修イベントの充実化とスリム化の検討’という新たな課題も見えてきた。また、‘必修スポットを含む形式の自由必修研修の運営方法’‘通常研修企画と特別研修企画のバランスとサイクル’‘研修イベント間の相関を考慮した企画の設定’も継続検討課題である。これらの点は、今後、長期的展望に立って検討していく必要がある。来年度も、文部科学省(私学事業団窓口)の「私立大学教育研究高度化推進特別補助」の企画として認められ、予算がつくことになった。‘北部九州(筑紫)の歴史と文化’をテーマに、吉野ヶ里・柳川・太宰府を研修地として設定し、内容の検討を始めている。上述の残された問題点について引き続き検討しながら、今回の結果も踏まえて、新たな課題の克服につとめていきたい。

[注]

- (1) 秋枝(青木)美保・戸田利彦『「異文化」の理解を目指した研修旅行(Ⅳ)―“瀬戸内(福山・倉敷)国際交流史”の実地研修―』、『比治山大学現代文化学部紀要』第6号, 1999
 戸田利彦・秋枝(青木)美保『「異文化」の理解を目指した研修旅行(Ⅴ)―“島根(奥出雲・出雲)鉄の文化史”の実地研修―』、『比治山大学現代文化学部紀要』第7号, 2000
 戸田利彦・秋枝(青木)美保『「異文化」の理解を目指した研修旅行(Ⅵ)―“瀬戸内海中部(芸予地域)の文化史”の実地研修―』、『比治山大学現代文化学部紀要』第8号, 2001
 戸田利彦・秋枝(青木)美保『「異文化」の理解を目指した研修旅行(Ⅶ)―“中国地方西部(津和野・萩)の文化史”の実地研修―』、『比治山大学現代文化学部紀要』第9号, 2002
 戸田利彦・秋枝(青木)美保『「異文化」の理解を目指した研修旅行(Ⅷ)―“大和地域(斑鳩・飛鳥・奈良)の文化史”の実地研修―』、『比治山大学現代文化学部紀要』第10号, 2003
- (2) 目的及び日程表を〔資料1〕として掲載した。
- (3) 自由研修計画書①(②③④も同様の形式)を〔資料2〕として掲載した。
- (4) 本稿の執筆者である戸田も、この研修記録報告書に、「「気」の文化の継承過程に関する研究(Ⅰ)―「温羅伝説」『桃太郎』の成立事情を中心に―」(P.43~65)という小稿を執筆し掲載した。
- (5) 調査紙(A3で2枚:1枚目表裏/2枚目表)を〔資料3〕として掲載した。
 尚、本稿は、「はじめに」Ⅰ.実施までの経緯Ⅱ.実施内容Ⅲ.実施後の冊子の編集―「土地のたからまるかじり」第6号Ⅳ.研修旅行及び研修合宿についてのアンケート調査Ⅴ.終わりに」を戸田が、「Ⅳ.第6回研修旅行における企画の多角化と安定化」を、秋枝(青木)が担当執筆した。

戸田 利彦 (言語文化学科日本語文化コース)

秋枝(青木)美保(福山大学人間文化学部人間文化学科日本文化コース)

(2004.11.16 受理)

【資料1】

平成15年度日本語文化専攻（日本語文化学会）研修旅行
『吉備の文化を訪ねる — 吉備路・備前・牛窓の文化史 —』

【目的】

古代日本において、大和、出雲などと並び大きな勢力を持っていた吉備の国の中枢史跡が数多く残る吉備路、江戸時代に開かれ様々な人材を生み出した日本最古の庶民の学校である閑谷学校のある備前、古くから大陸との交易があり江戸時代には朝鮮通信使の寄港地にもなり長い歴史と優れた景観を持つ牛窓を訪問し、史蹟、文化施設、景観などを直接体験しながら実地踏査し、大陸文化との関係を中心に、歴史・史跡・景観・文学などの観点から吉備の文化を探ると共に、これまでの研修地としてきた大和や出雲の文化、津和野・萩の文化、あるいは鞆の浦、大三島、松山などの瀬戸内の地域文化との関連について考察する。

第1日目から第2日目の前半は、鬼ノ城、造山・作山古墳、吉備中山（吉備津神社・吉備津彦神社）などを通して、古代吉備の歴史・文化を探る。ついで、第2日目後半から第3日目前半は、閑谷学校という教育文化施設、牛窓という街、寒風焼・備前焼という物を具体的な軸にして、吉備の文化の特色に迫る。最後の第3日目の後半に、吉備路文学館を訪問し、古代から現代まで受け継がれてきた吉備の文化が、吉備の文学にどのように反映されているかを検証する。

以上のような流れの中で、吉備の歴史や文化を体験しながら、参加者各自の問題意識に基づいて個々の研修テーマを設定し、実地踏査によって得られた事象を素材に研修レポートをまとめ、報告書を作成する。

【日程】

2月17日（火）

7：20 広島駅新幹線口ホテルグランヴィア前集合

7：30 バスで出発（7：45牛田不動院西側高速バス停留所）

8：00 朝のつどい（会長のことば／諸連絡〔リーダー〕／自由研修計画書①配布）

8：15 第5回事前研修会〔前半〕（25分）

VTR『吉備の国新発見の旅』（制作：岡山県）

古代吉備国・桃太郎伝説を訪ねて

吉備文化・カルチャーロード— 芸術家の足跡を訪ねて—

VTR『吉備津神社・春の七十五膳据神事（岡山の祭りと芸能1）』（企画：岡山民俗学会）

※8：45頃八幡PA（三原市）で休憩予定（10分程度）

9：15 第5回事前研修会〔後半〕（30分）

VTR『備中国分寺—五重塔（岡山県〈自然・文化財〉シリーズ11）』（企画：岡山県郷土文化財団）

情報交換（学生役員による説明／班長による自由研修計画紹介）

自由研修計画書①回収（吉備路郷土館必修／全員記入・グループ毎に提出）

※10：10頃吉備路到着

※天候不良の場合、10：25 学習の館到着・展示室見学・館内講演

10：20 砂川公園到着・小休憩（10分程度）（トイレは必ず行っておく）

10：30 砂川公園出発

〈11：00～12：30〔全体研修I〕：鬼ノ城（90分程度）〉

- 11:00 鬼ノ城駐車場到着・徒歩(10分程度)で復元西門へ
- 11:10 (1) 現地説明会講師紹介
 (2) 西門を背景に全体写真①(松尾先生と共に)
 →写真係2年生(責任者班長)(佐々木)
 ◎研修旅行中の主要スポットの撮影を含む(撮影禁止場所に注意)
- (3) 復元された西門を中心とした現地説明会(40分程度)
 (講話30分+質疑応答10分)
 内容:吉備の史跡と鬼ノ城
 講師:松尾洋平氏(総社市教育委員会文化課学芸員)
 →説明会のビデオ撮影係1年生(責任者班長)(山崎愛)
 →説明会のテープ録音係3年生(責任者班長)(山崎弥)
 ◎事後報告書用のテープ起こし①(山崎弥)
- 11:50 鬼ノ城西門周辺で史跡見学(40分程度)
 ※希望者は引き続き松尾氏による現地案内に参加可能/質疑応答は適宜
- 12:30 鬼ノ城駐車場集合・出発
- 13:10 観光センター(サンロード吉備路内)到着
 五重塔を背景に全体写真②
 →写真係2年生(責任者班長)(吉上)
 ◎研修旅行中の主要スポットの撮影を含む(撮影禁止場所に注意)
- <13:20~17:20〔自由研修Ⅰ〕:吉備の里>(4時間程度)(荷物はバスの中に)
 昼食自由※希望者は13:30にバスで国分寺方面へ向けて出発
 ◎必修スポットとして<吉備路郷土館>を必ず訪問すること(入館券[150円]で後で清算)
 作山古墳/吉備考古館/山手村郷土館/備中国分寺/こうもり塚古墳/備中国分尼寺
 跡/※吉備路郷土館(必修)/造山古墳/鯉喰神社/楯築遺跡/矢喰宮/雪舟生誕の
 地/窪木薬師遺跡/総社市まちかど郷土館/備中総社宮/井山宝福寺など
- 17:20 サンロード吉備路フロントに集合(荷物をバスから降ろしておく)
- 17:30 入室開始
- 18:30~19:30 夕食(2階宴会場)和・洋食の料理(吉備膳)
 ☆19:00:自由研修Ⅰ「吉備の里」特ダネ報告(各班の班長及び副班長)
 ☆諸連絡(サブリーダー)
- 20:15~21:00 “佐藤紳朗氏(山陽放送報道部記者)を囲む会:フリートーク”
 内容:吉備の歴史・文化に関わる番組制作について 会場:306号室
- 22:00 自由研修計画書②(吉備津[吉備の中山])及び③(閑谷)の提出期限(全員記入・班毎に306号室へ提出)
- 23:00 消灯

【総社市内泊】

2月18日(水)

7:00 起床

7:30 朝食(2階レストラン・マスカット)※全員集合一斉に

8:30 玄関前集合・出発、吉備の中山へ

9:00 吉備津彦神社到着

<9:10~9:50〔全体研修Ⅱ〕:講演(40分[質疑応答10分を含む])>

演題：“吉備の中山とイワクラ”

講師：薬師寺慎一氏（郷土史家／古代祭祀研究会講師）

司会：リーダー

→講演のビデオ撮影係1年生（責任者班長）（為谷）

→講演のテープ録音係3年生（責任者班長）（角谷）

◎事後報告書用のテープ起こし②（角谷）

10：00 吉備津彦神社出発・吉備津神社へ

<10：10～10：50〔全体研修Ⅲ〕：吉備津神社（40分）>

10：10 吉備津神社駐車場到着

(1) 古代祭祀研究会メンバー紹介

(2) 回廊前で全体写真③（薬師寺先生・古代祭祀研究会の方と共に）

→写真係2年生（責任者班長）（土井）

(3) 吉備津神社内で薬師寺氏による現地説明会（30分程度）

回廊／本殿／拜殿／御釜殿／桃太郎伝説など

※古代祭祀研究会メンバーによる補足

<10：50～12：40〔自由研修Ⅱ〕：吉備津神社周辺（吉備中山）（2時間程度）>

鼻ぐり塚／茶白山古墳（吉備津彦命御陵）／古代吉備文化財センター／吉備中山遊歩道／吉備津彦神社など ※希望者はバスで温羅伝説ミニツアーへ

昼食自由

12：40 吉備津神社駐車場に集合

12：50 吉備津神社出発・岡山I Cから山陽高速経由で閑谷学校へ

13：00 第6回事前研修会（45分）

VTR『津田永忠（岡山県《人物》シリーズ6）』（企画：岡山県郷土文化財団）

VTR『備前焼（岡山県《自然・文化財》シリーズ15）』（企画：岡山県郷土文化財団）

情報交換（学生役員による説明）

<14：00～15：00〔全体研修Ⅳ〕：閑谷学校（60分程度）>

14：00 閑谷学校駐車場到着（貴重品・手荷物以外はバスの中へ）

(1) 現地説明会講師紹介

(2) 閑谷学校校門前で全体写真④（上西先生と共に）

→写真係2年生（責任者班長）（塚本）

(3) 閑谷学校講堂を中心とした現地説明会（40分程度）

（講話30分＋質疑応答10分）

内容：閑谷学校の歴史と備前焼

講師：上西節雄氏（青少年教育センター閑谷学校次長）

→現地説明会のビデオ撮影係1年生（責任者班長）（中村）

→現地説明会のテープ録音係3年生（責任者班長）（寺本）

◎事後報告書用のテープ起こし③（寺本）

<15：00～16：00〔自由研修Ⅲ〕：閑谷学校周辺（60分程度）>

資料館／閑谷神社／聖廟／椿山／黄葉亭／津田永忠宅跡など

16：00 閑谷学校駐車場に集合

16：10 閑谷学校出発、楳の木街道・ブルーライン（日本のエーゲ海）経由で牛窓へ

16：15 第7回事前研修会〔前半〕（20分）

- VTR『牛窓(岡山県《自然・文化財》シリーズ12)』(企画:岡山県郷土文化財団)
 ※16:50頃 道の駅一本松展望園(邑久町)で休憩(20分程度)
 17:10 第7回事前研修会[後半](10分)
 VTR「牛窓～その文化と心～」『牛窓』(企画:岡山県牛窓町)
 17:30 シープラザ牛窓到着・フロントに集合・入室
 18:30～19:30 夕食(1階多目的ホール)和食中心の料理
 ☆19:00:自由研修Ⅱ・Ⅲ「吉備津神社・閑谷学校」特ダネ報告(各班の班長及び副班長)
 ☆諸連絡(リーダー)
 20:15～21:00 “廣畑一男さん(水彩画家)を囲む会:講話とフリートーク”
 内容:牛窓の自然景観と水彩画/牛窓の紹介(翌日の自由研修に向けて)
 →囲む会のビデオ撮影係1年生(責任者班長)(石堂)
 →囲む会のテープ録音係3年生(責任者班長)(山城)
 ◎事後報告書用のテープ起こし④(山城)
 →写真係2年生(責任者班長)(塚本) ※会場:地階真珠の間
 22:00 自由研修計画書④(牛窓)の提出期限(全員記入・班毎に301号室へ提出)
 23:00 消灯

【牛窓町内泊】

2月19日(木)

- 7:00～8:00 朝食(1階レストラン)
 8:45 玄関前集合・出発、オリーブ園展望台経由で海遊文化館へ
 (1) オリーブ園展望台で全体写真⑤(廣畑先生と共に)
 →写真係2年生(責任者班長)(藤岡)
 (2) 散策(含む現地説明)(30分程度)
 9:40 オリーブ園展望台出発
 <9:50～10:30[全体研修V]:海遊文化館(40分程度)>
 9:50 海遊文化館到着 ※バスは館前の専用駐車場へ
 10:00 海遊文化館内で研修(30分)
 館員による説明(朝鮮通信使/だんじり)と館内見学
 <10:30～13:00[自由研修Ⅳ]:牛窓の街(2時間30分)>
 本蓮寺/自然景観(唐琴の瀬戸)/天神山古墳/天神社/牛窓千軒町並み/しおまち唐琴
 通り/燈籠堂/エーゲ館うしまど(観光センター)/木造船街角展示館/映画‘カンゾー
 先生’‘黒い雨’ロケ地/御霊社/牛窓町民俗文化資料館/疫神社など※希望者は宇吉堂へ
 (途中までバスで)
 昼食自由
 13:00 海遊文化館前集合・出発、ブルーライン・2号線経由で吉備路文学館へ
 ※13:20頃寒風陶芸会館到着・寒風古窯址群(備前焼のルーツ)で散策(含む現地説明)(30分程度)
 13:50 集合・出発
 14:00 第8回事前研修会(30分)
 VTR『内田百閒(岡山県《人物》シリーズ6)』(企画:岡山県郷土文化財団)
 <15:20～16:50[全体研修Ⅵ]:吉備路文学館(90分)>
 15:20 吉備路文学館到着・南駐車場から茶室庭園を通過して文学館へ(5分程度)
 15:30 吉備路文学館内で研修

(1) 講演（50分 [質疑応答・フリートーク15分を含む]）

〈第Ⅰ部〉

演題：“吉備路文学館の設立事情と活動”（30分程度）

講師：千田洋右氏（財団法人吉備路文学館常務理事・館長）

〈第Ⅱ部〉

演題：“吉備路文学館との出会いと仕事”（20分程度）

講師：奥富紀子氏（同上館学芸員）

司会：リーダー ※2階ホール

→講演のビデオ撮影係1年生（責任者班長）（有田）

→講演のテープ録音係3年生（責任者班長）（戸田）

◎事後報告書用のテープ起こし⑤（戸田）

(2) 吉備路文学館内で全体写真⑥（講師の先生と共に）

→写真係2年生（責任者班長）（平澤）

(3) 館内及び庭園自由見学（30分）

“原田宗典展「我輩ハ作者デアル」” / 吉備路作家資料 / 日本庭園など

16：50 駐車場集合・出発

※17：00アンケート用紙配布

※報告書用研修レポートの確認

※18：00頃福山PAで休憩（10分程度）

※19：15頃牛田不動院前

19：30 広島駅到着・解散

※帰着時間は、道路・交通状況により変わる可能性あり

〔資料2〕

【自由研修計画書①（1日目午後：吉備の里）】

※バス内で各自記入して、現地到着前（10：00頃）に提出。

日時：平成16年2月17日（火）午後　：　～　：　 [約4時間]

本人氏名：（　　）

同行者氏名：（　　）

(1) “吉備の里”自由研修の主な目的（30～50字程度で）

(2) 予定している訪問場所とコース ※吉備路郷土館は必ず入れること

〔訪問場所〕

①

↓

②

↓

③

↓

④

↓

⑤

↓

⑥

↓

⑦

↓

⑧

↓

⑨

↓

⑩

↓ (以下、適宜付加)

(3) 最も重視している訪問スポットとその内容 (30~50字で説明)

訪問スポット ()

内容:

〔資料3〕

() 年生 (学部・大学院/男・女 [○をつけて下さい] ※2月19日(木)実施

【研修旅行についてのアンケート】※A3で2枚(表と裏にあります。〈1〉~〈3〉の全3ページ)

日本語文化専攻研修行事をより充実したものにしていくために、評価や意見・コメントを聞かせて下さい。

(1) 研修旅行についての自己評価(自分自身に対する評価)

〈事前研修〉

(1) 第1回~3回の中で参加したものの()内に○を記入して下さい。

() 第1回事前研修(1月6日(火)) [研修の目的/基本日程/主たる研修スポットを点で捉える]

() 第2回事前研修(1月13日(火)) [全体研修スポット [鬼ノ城・吉備津神社] について学ぶ]

() 第3回事前研修(1月29日(木)) [全体研修スポット [閑谷学校・海遊文化館・吉備路文学館] について学ぶ/役割分担/事後報告書用レポートの作成要領]

() 第4回事前研修(2月16日(月)) [下見報告/しおりに基づく最終日程の確認/自由研修エリア及びルートについて学ぶ]

※第5~8回事前研修(2月17日(火)~19日(木)バス内) [研修スポットをVTRで空間で捉える]

(2) 事前研修では研修のための資料を配布しましたが、どれくらい読みましたか。1~5の中から最も近いものに○(マル)をつけて下さい。

1 ほとんど読まなかった 2 あまり読まなかった 3 半分程度読んだ 4 かなり読んだ

5 ほとんど読んだ

(3) 事前に自分自身の研修テーマに関してどんな準備や予習をしましたか。()内に書いて下さい。

()

〈1日目～3日目〉

(a) 〈1日目〉～〈3日目〉の研修について、以下の基準で、下記のそれぞれの項目の1～5の数字に○（マル）をつけ、自己評価をして下さい。

1 無駄だった 2 あまり有意義でなかった 3 普通 4 有意義だった 5 たいへん有意義だった

(b) そのような自己評価をした理由を中心に、下記のそれぞれの項目にコメントを書いて下さい。

〈1日目〉

- ①【午前：鬼ノ城西門周辺（復元西門、吉備の景観、城壁、水門、敷石など）での地元講師（総社市教育委員会学芸員）による現地説明研修 [約40分]】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ②【午前：鬼ノ城西門周辺でのグループ別（地元講師による現地説明はオプション）研修 [約40分]】

(1) まず、選択したグループ（AまたはB）に○（マル）をつけて下さい。Bグループの場合は、この時間に自分が訪問した研修場所を、順番に（ ）内に書いて下さい。

（ ） Aグループ（地元講師と共に巡る）

（ ） Bグループ（自分達で巡る）

↓〈研修場所〉

（鬼ノ城西門→ → → → → → → ）

(2) 次に、自分が選択した研修について〈自己評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ③【午後：吉備の里（備中国分寺／備中国分尼寺跡／こうもり塚古墳／吉備路郷土館／造山古墳／作山古墳など）での自由研修 [約4時間]】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ④【午後：自由必修研修の吉備路郷土館（吉備の歴史及び周辺の発掘出土品の展示）での研修】

(1) まず、何時から何時までどのくらい滞在しましたか。（ ）内に記して下さい。

（ : ～ : ）の（ 分間）

(2) 次に、自分が行った研修について〈自己評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑤【夜：自由参加の地元放送局記者（佐藤紳朗さん）を囲む会（フリートーク：吉備の歴史・文化に関する番組制作／記者の目で見た鬼ノ城）】

(1) まず、参加・不参加のいずれかに○（マル）をつけて下さい。

参加 不参加

(2) 次に、参加した場合は〈自己評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

〈2日目〉

- ⑥【午前：吉備津彦神社での地元講師（郷土史家）による講演（吉備の中山とイワクラ） [約40分]】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑦【午前：吉備津神社（温羅伝説／神社の祭神／本殿及び拝殿〔国宝〕などの建築と歴史）での研修
【約1時間】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑧【午前：吉備津神社周辺（吉備の中山）でのグループ別自由研修【約2時間】】

(1) まず、選択したグループ（AまたはB）に○（マル）をつけて下さい。Bグループの場合は、この時間に自分が訪問した研修場所を、順番に（ ）内に書いて下さい。

（ ） Aグループ（地元ボランティアと共にイワクラを巡る）

（ ） Bグループ（自分達で巡る）

↓〈研修場所〉

（吉備津神社→ → → → → → → ）

(2) 次に、自分が選択した研修について〈自己評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑨【午後：閑谷学校（閑谷神社／聖廊／石塀／講堂と備前焼瓦／火除山など）での地元講師（センター次長）による現地説明研修【約40分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑩【午後：閑谷学校周辺（資料館／椿山／津田永忠宅跡／黄葉亭など）での自由研修【約1時間】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑪【夜：自由参加の地元水彩画家（廣畑一男さん）を囲む会（講話とフリートーク：牛窓の自然景観と水彩画、牛窓の街の生情報）】

(1) まず、参加・不参加のいずれかに○（マル）をつけて下さい。

参加 不参加

(2) 次に、参加した場合は〈自己評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

〈3日目〉

- ⑫【午前：オリーブ園展望台周辺（牛窓の景観〔日本の原風景：棚田／日本のエーゲ海〕／神功皇后伝説／オリーブ園／ローマの丘など）での地元講師（水彩画家）による現地説明を含む研修【約40分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑬【午前：海遊文化館（朝鮮通信使／唐子踊り／だんじりなど）での研修【約30分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑭【午前：牛窓の街（かつて栄えた潮待ち港の古い町並み／時代順の明確な古墳群／段々畑の丘陵地と海・島からなる自然景観／絵や絵本のギャラリーなど）での自由研修【約2時間30分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑮【午後：寒風陶芸会館（古代須恵器の出土品／古窯跡／備前焼のルーツ／現代陶芸家の作品など）での研修【約30分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑯【午後：吉備路文学館での地元講師（館長及び学芸員）による講演（吉備路文学館の設立事情と活動／吉備路文学館との出会いと仕事）【約40分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑰【午後：吉備路文学館（原田宗典展「我輩ハ作者アアル」／吉備路作家資料／日本庭園など）での研修【約30分】】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

〈全 体〉

- ⑱【上記17の研修イベント以外（行き帰りのバスの中／食事／その他自由時間）の自由時間】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑲【今回の研修旅行は“吉備（吉備路・備前・牛窓）の5世紀～現代にかけての日本語文化に関わる民俗資料及び文化資料を、実地踏査し、古代日本の一つを中心地であった地域の文化を通して専門領域へのアプローチを行う”ことを目的として行われましたが、そのねらいは、総合的にどの程度達成されましたか。】

〈自己評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

（Ⅱ）研修旅行のイベント企画について（企画に対する評価）

- (a) 〈事前研修〉〈1日目〉～〈3日目〉のイベント企画について、以下の基準で、下記のそれぞれの項目の1～5の数字に○（マル）をつけ、企画に対する評価をして下さい。
1 ひどい 2 あまりよくない 3 普通 4 よい 5 大変よい
- (b) 下記のそれぞれの項目について、できるだけ意見やコメントを書いて下さい。

〈事前研修〉

- ①【第1回～4回の研修のスポット・エリア・背景についての学内事前研修（吉備路・備前・牛窓に関する資料や下見に基づく最新の情報による5世紀～現代の吉備の文化の理解）【合計約3時間】】

(1) まず、今回のような学内事前研修を行ったことについて、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

(2) 次に、第1回～4回の中で参加したものの（ ）内に○を記入して下さい。

（ ）第1回（1月6日） （ ）第2回（1月13日） （ ）第3回（1月29日）
（ ）第4回（2月16日）

(3) 参加（1度でもよい）した場合は、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ②【第5回～8回の全体研修スポットについてのVTRを中心としたバス内事前研修（第5回“吉備の国新発見の旅”“吉備津神社・春の七十五膳据神事”“備中国分寺—五重塔”、第6回“津田永忠義”“備前焼”、第7回“牛窓”“牛窓～その文化と心～”、第8回“内田百閒”という空間映像と語

りによる5世紀～現代の吉備の文化の理解) [合計約2時間40分]

- (1) まず、今回、往路の全移動時間(約8時間)の有効利用(約3分の1の2時間40分)を考えて、バス内研修の形式で事前研修を行ったことについて、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- (2) 次に、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

<1日目～3日目>

<1日目>

- ③【午前：鬼ノ城西門周辺(復元西門/吉備の景観/城壁/水門/敷石など)での地元講師(総社市教育委員会学芸員)による現地説明全体研修(古代吉備王国の姿/白村江の戦い前後(7世紀中頃)の東アジア情勢/温羅伝説の舞台の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ④【午前：鬼ノ城西門周辺でのグループ別(地元講師による現地説明はオプション)研修(古代吉備王国の姿/白村江の戦い前後(7世紀中頃)の東アジア情勢/温羅伝説の舞台の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑤【午後：吉備の里(吉備路郷土館/造山古墳/作山古墳/こうもり塚古墳/備中国分寺/備中国分尼寺など)での自由研修(5世紀～8世紀の吉備の文化の理解)】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑥【午後：自由必修研修(自由研修の中に必修スポットを設定・訪問することによる吉備の文化の理解)】

- (1) まず、今回のような必修スポットを含む形式の自由研修企画について、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- (2) 吉備路郷土館を必修スポットとしたことについて、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑦【夜：自由参加の地元放送局記者(佐藤紳朗さん)を囲む会(古代山城“鬼ノ城”の番組制作[山陽放送(RSK)H16.2月22日(日)放送予定]にまつわるエピソードを中心に地元放送局記者の目を通して見た吉備の歴史・文化の振興の実情や最新の生情報を聞くことによる吉備の文化の理解)】

- (1) まず、今回のような自由参加のフリートークを中心とした“～さんを囲む会”形式の研修企画について〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- (2) 次に、参加・不参加のいずれかに○(マル)をつけて下さい。

参加 不参加

- (3) 参加した場合は、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

〈2日目〉

- ⑧【午前：吉備津彦神社での地元講師（郷土史家）による講演（吉備の中山とイワクラを通した吉備の文化の理解）】

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑨【午前：吉備津神社内での現地説明全体研修（温羅伝説／神社の祭神／本殿及び拜殿〔国宝〕・回廊などの建築と歴史を通した吉備の文化の理解）】

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑩【午前：吉備津神社周辺（吉備の中山）でのグループ別自由研修（ガイドと共に（オプション）または個人で史跡や文化施設を踏査することによる吉備の文化の理解）】

- (1) まず、今回のようなオプションを含む形式の自由研修企画について〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- (2) 次に、自分が選択したグループ（AまたはB）に○（マル）をつけた上で、この時間（10：50～12：40）の〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

Aグループ（地元ボランティアと共に巡る）

Bグループ（自分達で巡る）

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑪【午後：閑谷学校（閑谷神社／聖廊／石塚／講堂と備前焼瓦／火除山など）での地元講師（センター次長）による現地説明全体研修（江戸時代の庶民教育〔日本最古〕／備前焼／建築物としての講堂〔国宝〕を通した備前の文化の理解）】

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑫【午後：閑谷学校周辺（資料館／椿山／津田永忠義宅跡／黄葉亭跡など）での自由研修（閑谷学校の歴史／ゆかりの人々／教育と自然環境などを通した備前の文化の理解）】

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑬【夜：自由参加の地元水彩画家（廣畑一男さん）を囲む会（牛窓の景観と水彩画を中心に地元の生活者〔元小学校・中学校教員〕兼水彩画家の目を通して見た牛窓の実情や生情報を聞くことによる牛窓の文化の理解）】

- (1) まず、今回のような自由参加の講話とフリートークを中心とした“～さんを囲む会”形式の研修企画について〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- (2) 次に、参加・不参加のいずれかに○（マル）をつけて下さい。

参加

不参加

- (3) 参加した場合は、〈評価〉と〈コメント〉を記して下さい。

〈評 価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

〈3日目〉

- ⑭【午前：オリーブ園展望台周辺（牛窓の景観〔日本の原風景：棚田／日本のエーゲ海〕／神功皇后伝説／オリーブ園／ローマの丘など）での地元講師（水彩画家）による現地説明を含む研修（日本のエーゲ海と呼ばれる牛窓の自然景観を中心とした地元の水彩画家による説明や自分の足で散策することを通した牛窓の理解）】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑮【午前：海遊文化館（朝鮮通信使／唐子踊り／だんじりなど）での全体研修（江戸時代の朝鮮通信使を中心に秀吉の朝鮮出兵以降の日本と朝鮮の国際交流の実態と牛窓での受け入れ状況を通した牛窓の文化の理解）】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑯【午前：牛窓の街（瀬戸内最古とも言われ潮待ち港として栄えた牛窓港／時代順の明確な古墳群／港と段々畑の広がる丘陵地からなる文化的景観〔文化庁検討会選定〕）での自由研修（自分の足で踏査することによる牛窓の文化の理解）】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑰【午後：寒風陶芸会館（古代須恵器の出土品／古窯跡／備前焼のルーツ／現代陶芸家の作品など）での研修（備前焼のルーツとしての須恵器の生産と出荷を通した備前（特に牛窓）の文化の理解）】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑱【午後：吉備路文学館での地元講師（館長及び学芸員）による講演（近現代の吉備の文学の理解）】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

- ⑲【午後：吉備路文学館内（原田宗典展「我輩ハ作者デアル」／吉備路作家資料／日本庭園など）での全体研修（展示品・映像資料を通した近現代の吉備の文学の理解）】

〈評価〉 〈コメント〉

1 2 3 4 5

(Ⅲ) 研修旅行の時期・日程・費用・場所について（今後の研修のために）

※それぞれの項目の該当する番号に○(マル)をつけて下さい。

- ①【今回の2月17日（火）～2月19日（木）（春休み中）という時期は、専攻行事、他の大学行事を考慮して決められましたが、今後は】
- (1) 今回のように春休み中に実施するのがよい。
 - (2) 年末・年始を外した冬休み中に実施するのがよい。
 - (3) 夏休みの終わりに実施するのがよい。
 - (4) 夏休み始めの集中講義終了後（8月7日前後）に実施するのがよい。
- ②【今回の研修旅行の日程は費用（2万円以内）と場所（吉備方面）を考慮し2泊3日としましたが】
- 〈今回の日程について〉
- (1) 2泊3日でよかった。

(2) 費用を3万円程度自己負担しても3泊4日ぐらいがよかった。

(3) ♪ を4万円 ♪ 4泊5日ぐらいがよかった。

(4) ♪ を5万円 ♪ 5泊6日ぐらいがよかった。

※(2)~(4)を選んだ人は、具体的な研修プランがあれば()内に書いて下さい。

()

〈今後の日程について〉

(1) 費用1万円で行ける範囲で1泊2日がよい。

(2) ♪ 2万円 ♪ 2泊3日がよい。

(3) ♪ 3万円 ♪ 3泊4日がよい。

(4) 日帰りがよい。

- ③【研修目的の達成、2泊3日の日程、自己負担2万円以内という費用などを考慮し、今回は、「吉備路・備前・牛窓（備中・備前地区）」を実地踏査の場所としましたが】

〈今回の場所について〉

(1) 今回は吉備路・備前・牛窓（備中・備前地区：岡山県）でよかった。

(2) 津和野・萩（石見・長門地区：島根・山口県）の方がよかった。（2年前実施）

(3) 大三島・松山（芸予地区：愛媛県）の方がよかった。（3年前実施）

(4) 横田町・出雲（奥出雲・出雲地区：島根県）の方がよかった。（4年前実施）

(5) 福山・倉敷（備後・備前地区：広島・岡山県）の方がよかった。（5年前実施）

(6) 岩国・大島（周防地区：山口県）の方がよかった。（未実施）

(7) 石見・温泉津（石見地区：島根県）の方がよかった。（未実施）

(8) 琴平・高知（讃岐・土佐地区：香川・高知県）の方がよかった。（未実施）

〈今後について〉

→今後、1泊2日の日程で研修に行ってみたいあるいは行ってみるとよいと思われる場所を上記の(2)~(8)の中から3つ選び（ベスト3）、順位ごとに番号を記して下さい。

1位() 2位() 3位()

→上記(2)~(8)以外で、1泊2日の日程で研修に行ってみたいあるいは行ってみるとよいと思われる場所があれば、()内に理由も付して書いて下さい。

〈場所〉() 〈理由〉()

- ④【前回は、地域文化をより広い視野から考察するために、“土地の宝まるかじり”研修旅行の特別企画として斑鳩・飛鳥・奈良という中国・四国地区を越えた日本文化に関わる有名地区を実地踏査の場所としましたが、今後は4年に1度（在学中に1度）のペースで】

(1) 奈良地区（斑鳩・飛鳥・奈良など）に限定して実施するのがよい。

(2) 京都地区（京都市周辺）に限定して実施するのがよい。

(3) 奈良・京都地区に限定して実施するのがよい。

(4) 奈良・京都地区以外でもいいが、日本の歴史・文学遺産（信州・鎌倉、日光など）に限定して実施するのがよい。

(5) 日本の文化遺産（歴史や文学遺産）以外に自然遺産（屋久島、白上山地など）にまで範囲を広げて実施するのがよい。

(6) 歴史的に日本文化と関わりの深い近隣諸国（韓国、台湾、中国など）にまで範囲を広げて実施するのがよい。

(7) 特に特別企画を実施する必要はなく、現在のように中国・四国地方の地域文化に限定して実施するのがよい。

- ⑤【今後の研修企画について、広島に厳島神社、原爆ドームと世界遺産が2つあることに着目し、瀬戸内地域を中心に、世界遺産への登録を目指す遺産を有する地（例：石見銀山）を研修場所とし、その歴史や文化を実地踏査すると共に、地域文化を世界の遺産とするための地域の取り組みを取材報告し、その作業を通して自分自身を発見していくという研修旅行も考えられますが、そのような企画のあり方についてどう思いますか。意見・コメント等を自由に書いて下さい。】

- (Ⅳ) 今回の研修旅行は、実地踏査による地域文化のより広い視野からの研究を通じた専門領域への自主的なアプローチを目的として実施されましたが、この点も含めて研修旅行のあり方について、意見・コメント等を自由に書いて下さい。

(V) 研修旅行と研修合宿について

※該当する番号に○（マル）をつけて下さい。

【専門領域へのアプローチの方法として、今回のような地元の地域文化の实地踏査を一つのきっかけとする研修旅行の他に、地域研究のテーマに沿った实地踏査と発表を中心とした宿泊を伴う全員参加の研修合宿のようなものも考えられますが】

- (1) 費用が安くすむところ(例:広島市内公共施設 1泊2日3000円)で研修合宿を全員参加で行う。
- (2) 費用が比較的かからないところ(例:広島県内及び周辺 2泊3日2万円)で研修合宿を全員参加で行う。
- (3) 費用はかかる(例:京都2泊3日5万円/東京3泊4日7万円)が研修合宿(旅行)を全員参加で行う。
- (4) 全員参加の宿泊を伴う研修合宿(旅行)は特に必要ない。

(VI) 研修合宿について、意見・コメントを自由に書いて下さい。